交野市埋蔵文化財調査報告 2009- I

平成 21 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

２０１０．３

交野市教育委員会

例　　言

1　本書は、交野市教育委員会が平成21年度国庫補助事業（事業総額1,000,000円　国庫補助率50%　市負担率50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。

2　調査次数番号は、確認調査・立会・本発掘調査を一括して、実施順に、遺跡ごとに調査次数番号をつけ、遺跡名・年度・次数の順番に示した（森遺跡2009－３次など）。

3　発掘調査及び本書の編集・執筆は、交野市教育委員会社会教育課文化財係　課長代理　小川暢子の指導のもと、同係員　吉田知史が行った。

凡　　例

1　遺構実測図の方位は、全て磁北を示す。

2　使用した標高は、東京湾平均海水位（T.P.）からのプラス値であり、「T.P.＋」を省略して示した。調査期間の不足等の理由で、標高を測定していない場合は、現地表面（G.L.）を基準とした。

3　各平面図・断面図の縮尺は、個別にスケールをあわせて示した。

4　本書の断面図の土色注記は、『新版標準土色帖』2002年版にもとづいて行った。

5　報告の際に、基本層序を設定した際には、層番号の前に「第」をつけて示し（第１層、第２～４層など）、各断面図で使用される各層番号と区別した。また、各断面図の層注記末尾の括弧内に、基本層序番号・遺構の種類・性格など、各層の位置づけを記した。

6　遺構名の表記は、おおむね上層から下層の時期順につけた遺構番号のあとに、遺構種類を示した（１溝、２土坑など）。

目　　次

第１章　　埋蔵文化財発掘調査の状況

第１節　交野市の概要と遺跡 …… 1
第２節　文化財保護法にもとづく届出・通知と発掘調査の実施状況 …… 5

第２章　　森遺跡 2009－11 次発掘調査概要報告

第１節　調査にいたる経緯と経過 …… 19
第２節　基本層序 …… 20
第３節　遺構 …… 22
第４節　遺物 …… 25
第５節　まとめ …… 27

挿図

第 1 図　交野市内遺跡分布図 …… 2
第 2 図　森遺跡調査地位置図 …… 10
第 3 図　森遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 10
第 4 図　森遺跡 2009－３次調査区平面図・断面図 …… 10
第 5 図　森遺跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 10
第 6 図　森遺跡 2009－４次調査区平面図・断面図 …… 11
第 7 図　森遺跡 2009－６次調査区平面図・断面図 …… 12
第 8 図　森遺跡 2009－７次調査区平面図・断面図 …… 12
第 9 図　森遺跡 2009－８次調査区平面図・断面図 …… 12
第 10 図　森遺跡 2009－10 次調査区平面図・断面図 …… 12
第 11 図　森遺跡 2009－12 次調査区平面図・断面図 …… 13
第 12 図　私部城跡・私部城遺跡調査地位置図 …… 13
第 13 図　私部城跡・私部城遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 14
第 14 図　私部城跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 14
第 15 図　私部城跡 2009－３次調査区平面図・断面図 …… 14
第 16 図　私部南遺跡調査地位置図 …… 15
第 17 図　私部南遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 15
第 18 図　私部南遺跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 15
第 19 図　私部南遺跡 2009－３次調査区平面図・断面図 …… 15

第 20 図　交野郡衙跡・郡津渋り遺跡調査地位置図 …… 16
第 21 図　交野郡衙跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 16
第 22 図　交野郡衙跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 16
第 23 図　交野郡衙跡 2009－３次調査区平面図・断面図 …… 16
第 24 図　倉治遺跡・神宮寺遺跡調査地位置図 …… 17
第 25 図　倉治遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 17
第 26 図　神宮寺遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 17
第 27 図　神宮寺遺跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 17
第 28 図　上の山遺跡調査地位置図 …… 18
第 29 図　上の山遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 18
第 30 図　上の山遺跡 2009－２次調査区平面図・断面図 …… 18
第 31 図　坊領遺跡調査地位置図 …… 18
第 32 図　坊領遺跡 2009－１次調査区平面図・断面図 …… 18
第 33 図　森遺跡 2009－11 次調査区位置図 …… 20
第 34 図　森遺跡 2009－11 次調査区断面図 …… 21
第 35 図　第１～５層遺構平面図・断面図 …… 22
第 36 図　第６層遺構平面図 …… 23
第 37 図　第７層遺構平面図・断面図 …… 23
第 38 図　第８～10 層遺構平面図 …… 24
第 39 図　第 11 層遺構平面図・断面図 …… 24
第 40 図　森遺跡 2009－10 次・11 次調査出土遺物実測図 …… 26

挿表

第１表　平成 21 年度第 93 条の届出・94 条の通知による発掘調査一覧（平成 21 年度分） …… 6
第２表　平成 21 年度第 93 条の届出による発掘調査一覧（平成 20 年度分） …… 9

写真図版

写真図版１　交野郡衙跡 2009－１次調査　調査区西壁断面
写真図版２　森遺跡 2009－４次調査　第２調査区遺構検出状況（北西から）
写真図版３　森 2009－11 次調査　第１調査区北壁断面
写真図版４　森 2009－11 次調査　第１調査区第５層～10 層遺構（北から）

第１章　埋蔵文化財発掘調査の状況

第１節　交野市の概要と遺跡

（１）交野市の概要

市の概要　交野市は、昭和30年に交野町と星田町の合併により市制を施行した。大阪府東北部の北河内地域の７市の一つであり、北に枚方市、南に四條畷市、西に寝屋川市、東に奈良県生駒市が隣接する。市の東西長は5.4km、南北長は6.8km、面積は25.55㎢に及ぶ。市域の大半は、生駒山地の一角をなす交野山地からなる。風化の進んだ花崗岩類で形成されることを特徴とし、多くの急渓流が分布する。平野部は洪積層および沖積層から成り立っている。主要な河川は、市南部の生駒山地に発し、交野市から枚方市を縦断し、北の淀川へ合流する天野川がある。市西部を流れる傍示川が寝屋川の支流であるのを除くと、市内の小河川は天の川の支流である。

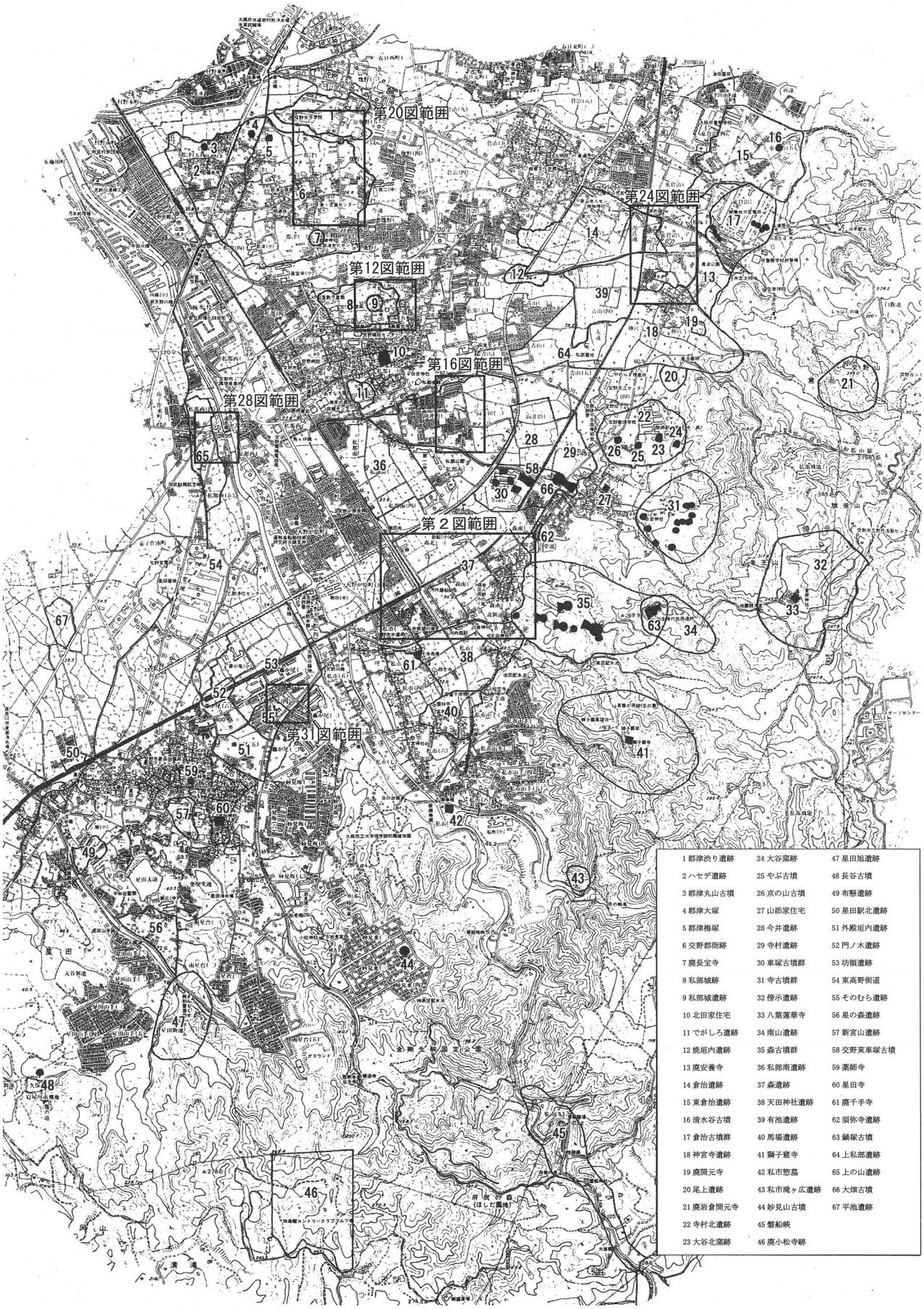
市域の開発状況　昭和初期まで、平野部には私部、私市、森、星田、倉治、郡津などの集落が点在するのみで、その大半は田畠として利用されてきた。昭和の大規模開発の時代に鉄道路線・幹線道路周辺を中心として開発が進み、宅地・商業地・工業地が増加した。近年の開発では平成22年３月に全面開通する第二京阪道路が特筆される。山地部は、奈良県との境にある傍示の集落など一部を除き、土地利用規制により植生が保持される。また、市の東部は関西文化学術研究都市区域となっている。

近年の開発を経てもなお山裾から平野部にかけては農地が多く、住宅地の中にも国指定重要文化財の北田家・山添家に代表される歴史豊かな街並みをみることができる。古きよき風景を今に残す田園住宅都市である。

（２）交野市内の周知の埋蔵文化財包蔵地

交野市は、北河内のなかでも早くから人間活動の痕跡を示す。また、東高野街道と磐船街道の交差する交通の要衝でもあり、遺跡が多く残されてきた。現在、周知の埋蔵文化財包蔵地は64箇所を数える（第１図）。以下、主に交野町史復刻編（片山1981）と交野市史考古編（水野1992）の内容にもとづき、近年の成果をふまえ、各時代の様相を記載する。遺跡名の後に第１図の遺跡番号を記す。

旧石器時代　神宮寺遺跡（18）や布懸遺跡（49）で、遺構は未検出ながら、ナイフ形石器などが採集されており、旧石器時代後期より人間活動の痕跡が知られる。旧石器時代に関しては近年の調査の増加にもかかわらず、遺構・遺物の顕著な増加は認められない。



第１図　交野市内遺跡分布図

縄文時代　近畿地方の縄文時代早期の指標となる神宮寺式土器の標識遺跡である神宮寺遺跡（１）のほか、中期後半から後期前半の星田旭遺跡（47）がある。また、晩期の滋賀里式土器が、焼垣内遺跡（12）で出土している。近年、上の山遺跡（65）の土坑群（小林他編 2008)、私部南遺跡（36）の滋賀里式土器出土の土坑（後川編 2007）など遺構・遺物の検出例が増加した。

弥生時代　私部城遺跡(９)、寺村遺跡（29）などの集落や、高地性集落の南山遺跡（34）が知られてきた。近年では、私部南遺跡（36）で前期末から中期初頭の集落が確認されたほか（後川編 2007)、上の山遺跡（65）で中期前葉の独立棟持柱をもつ大形掘立柱建物（後藤 2007）や方形周溝墓（小林他 2008）が検出されるなど、特に前期から中期の集落・墓域に関する新成果が多く得られた。また、東倉治遺跡（15）で後期の集落が調査された（前田他 2006)。

古墳時代　前期の森古墳群（35）から、中期の交野車塚古墳群（58）まで、北河内のなかでも前方後円墳・前方後方墳が多く築かれる。近年では、交野市域における古墳の初現と考えられていた森第１号墳（雷塚）より遡る可能性のある鍋塚古墳が発見されたことが特に注目される（真鍋 2003)。また、焼垣内遺跡（12）で埋没した小方墳が検出されており、平野部においても新たに古墳が発見される可能性は大いにある。後期古墳では、倉治古墳群（17)、清水谷古墳（16)、寺古墳群（31）などがあり。終末期の長谷古墳（48）をもって交野市内での古墳の築造は停止する。

集落・生産遺跡としては中～後期の集落・鍛冶生産地として著名な森遺跡（37）や、後期の窯跡である大谷窯（24）と大谷北窯（23）の存在が知られていた。近年、上私部遺跡（64）で中期以降、飛鳥時代まで続く集落が確認された（鈴木他編 2007、網他編 2007、若林他 2009)。生産遺跡としては、私部南遺跡（36）で古墳時代から飛鳥時代にかけての水田が検出されたほか（後川他編 2007)、上の山遺跡（65）から枚方市の茄子作遺跡で、焼け歪み・溶着品を含む須恵器や、焼き台・窯体片が検出され、周辺に TK73 型式併行の生産地が存在する可能性が高まった（後藤 2007、黒須他編 2008 など)。

飛鳥～奈良時代　官衙推定地として、交野郡衙跡（６）が有力候補とされてきた。寺院では、飛鳥時代の廃長宝寺跡（７)、奈良時代の須弥寺遺跡（62）などがある（真鍋 2004)。近年、上の山遺跡で庇付きの掘立柱建物・柵列などの遺構が確認されるなど（矢倉編 2005)、一般的な集落とは捉えがたい遺構・遺物の発見が増加している。

平安時代以降　平安時代においては、獅子窟寺（41）などの山岳寺院の存在が知られるほか、森遺跡の遺構・遺物に関して、三宅山荘園および石清水八幡宮領との関連が指摘されている（奥野・真鍋 2001)。中世以降では、中・近世の平城の痕跡を明瞭に残す私部城跡（８）や（小川編 1995)、集落としては今井遺跡（28)、新宮山遺跡（57）の中～近世の大量の瓦を伴う建物跡などの多量の遺構・遺物（真鍋 1993）が知られてきた。第二京阪道路関連の調査では、有池遺跡で平安時代の終わりから中世

に拡大する居住域と生産域が確認されたことに加えて（若林編 2007 ほか)、上の山遺跡で平安時代から中世の水田遺構・掘立柱建物・道路遺構が検出されるなど（後藤編 2007)、平池遺跡（67）の中世の水田と関連遺構（黒須編 2006）など、中世以降についても多くの調査成果が得られた。

参考文献・報告書（編著者名　五十音順）

後川恵太郎編 2007『私部南遺跡Ⅰ』センター調査報告第 154 集、財団法人大阪府文化財センター

網伸也他編 2007『上私部遺跡Ⅱ』センター調査報告第 165 集、財団法人大阪府文化財センター

小川暢子編 1995『私部城跡』発掘調査概要報告書１、交野市教育委員会

奥野和夫・真鍋成史編 2001『森遺跡Ⅷ』交野市埋蔵文化財調査報告 2000－Ⅶ、交野市教育委員会

片山長三 1981『交野市史　交野町略史　復刻編』、交野市編纂委員会（1963 初版、1970 増補改訂）

黒須亜希子編 2006『平池遺跡』センター調査報告第 149 集、財団法人大阪府文化財センター

後藤信義編 2007『上の山遺跡Ⅱ』センター調査報告第 155 集、財団法人大阪府文化財センター

小林義孝・吉田綾子他編 2008『上の山遺跡Ⅲ』センター調査報告第 171 集、財団法人大阪府文化財センター

小林義孝・日野祥子・舘邦典 2008『倉治遺跡Ⅱ』センター調査報告第 169 集、財団法人大阪府文化財センター

鈴木廣司他編 2007『上私部遺跡Ⅰ』センター調査報告第 151 集、財団法人大阪府文化財センター

前田義明・合田幸美他編 2006『東倉治遺跡Ⅱ』センター調査報告第 146 集、財団法人大阪府文化財センター

真鍋成史 1993『新宮山遺跡』交野市埋蔵文化財調査報告 1992－Ⅱ、交野市教育委員会

真鍋成史 2003『鍋塚古墳 2002－1 次調査・有池遺跡 2002-１次調査』交野市埋蔵文化財調査 2002－Ⅱ、交野市教育委員会・財団法人交野市文化財事業団

真鍋成史編 2004『須弥寺遺跡』交野市埋蔵文化財調査報告 2003－Ⅱ、交野市教育委員会

水野正好 1992『交野市史　考古編』、交野市教育委員会

矢倉嘉人編 2005『上の山遺跡Ⅰ』センター調査研究報告第 137 集、財団法人大阪府文化財センター

若林幸子編 2007『有池遺跡Ⅰ』センター調査報告第 152 集、財団法人大阪府文化財センター

若林幸子・黒須亜希子 2009『上私部遺跡Ⅲ』センター調査報告第 193 集、財団法人大阪府文化財センター

第２節　文化財保護法にもとづく届出・通知と発掘調査の実施状況

（１）文化財保護法にもとづく届出・通知

平成21年４月１日から平成22年２月28日の間に受付けた文化財保護法第93条第１項にもとづく届出および第94条第１項にもとづく通知の件数は、93件である。昨年度の81件から微増した。工事の種別では、個人住宅建設が全体の３割、分譲住宅建設が３割と住宅建設がその大半を占め、残りの４割はガス・宅地造成・道路・下水道等などである。包蔵地内における開発の大半を住宅建設が占める状況は、前年度と同じである。92条第１項にもとづく届出は、財団法人大阪府文化財センターによる上私部遺跡の調査１件のみであった。

（２）届出・通知への対処状況

対処状況　93件にのぼった文化財保護法第93条の届出・第94条の通知への対処内容の内訳は、市教育委員会による確認調査が24件（そのうち、平成22年３月時点で２件が未実施）、大阪府教育委員会による調査が１件、交野市教育委員会による立会調査が10件、慎重工事が58件である。

今年度、補助事業に係り交野市教育委員会が実施した確認調査の件数は、平成21年度分の届出・通知による22件と、平成20年度分の届出による２件をあわせた計24件を数える。確認調査の各内容については、平成21年度内の届出・通知によるものを第１表に、平成20年度の届出によるものを第２表に、調査実施順に記載する。各調査の位置・調査区平面図および断面図等は、表とは別に、遺跡ごとに整理し、第２～31図に示した。なお、今年度の確認のための発掘調査にて出土遺物のうち図化しうるものは、森遺跡2009－11次調査出土遺物がある。これに関しては、第２章第５節にて本調査出土遺物とあわせて報告する。なお、この一覧表の中に記載のない森2009－８次は、立会調査である。

本発掘調査の実施状況　調査により、開発行為による遺跡の破壊が生じることが確認されたのは、賃貸住宅建設に伴う森遺跡2009－４次と、個人住宅建て替えに伴う森2009－10次調査の２件である。協議の結果、計画変更が不可能であったため、事前に本発掘調査を実施した。森2009－４次調査の結果のもと実施されることになった森遺跡2009－５次調査は、財団法人交野市文化財事業団に委託した。森2009－10次調査の結果を受けて、本教育委員会が実施した森2009－11次調査については、第２章にて報告を行う。

なお、交野市教育委員会・財団法人交野市文化財事業団による発掘調査以外の市内の発掘調査としては、財団法人大阪府文化財センターによる私部南遺跡をはじめとした調査のほか、大阪府教育委員会による倉治遺跡の調査が実施された。

第１表　平成21年度第93条の届出・第94条の通知による発掘調査一覧（平成21年度届出分）

No.	調査期間	遺跡名	調査地住所	内容（調査面積・深度・遺構の有無等）
1	４月21 ～23日	森遺跡 2009－２次	森南１丁目 406－5	第１調査区（3.2㎡）、第２調査区（2.9㎡）を設定し、現地表下0.6mまで重機・人力掘削した。土坑等の遺構が検出されるとともに旧作土中にて、土器・陶磁器片が出土したが、遺構に伴わない小片のため、遺構が近世以前のものかは確認できなかった（第２・５図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。
2	４月28日	森遺跡 2009－３次	私市２丁目 1198－4、 1205－3	1.5㎡を現地表下0.6mまで人力掘削し、現代盛土と旧作土を確認した。遺構・遺物はなし（第２・４図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性はある。
3	５月19日	私部城跡・ 私部城遺跡 2009－１次	私部５丁目 1754－5	2.0㎡を現地表下0.5mまで人力掘削し、現代盛土・旧作土層を確認した。遺構・遺物は検出されなかった（第12・13図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性はある。
4	５月25日	上の山遺跡 2009－１次	私部西４丁目 1059－5	1.0㎡を現地表下0.6mまで人力掘削した。現代盛土で、遺構・遺物は検出されなかった（第28・29図）。 現代盛土下で遺構・遺物が確認される可能性はある。
5	６月15日	私部南遺跡 2009－１次	向井田１丁目 150－10	4.9㎡を現地表下1.0～1.2mまで重機掘削した。現代盛土および旧作土のみで、遺構・遺物は検出されなかった（第16・17図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。
6	９月１日	私部城跡 2009－２次	私部６丁目 1806番	第１調査区（2.0㎡）と第２調査区（2.0㎡）を設定し、現地表下0.6～1.0mまで人力掘削した。現代盛土およびその下の旧作土層を確認した。遺構・遺物は検出されなかった（第12・14図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。

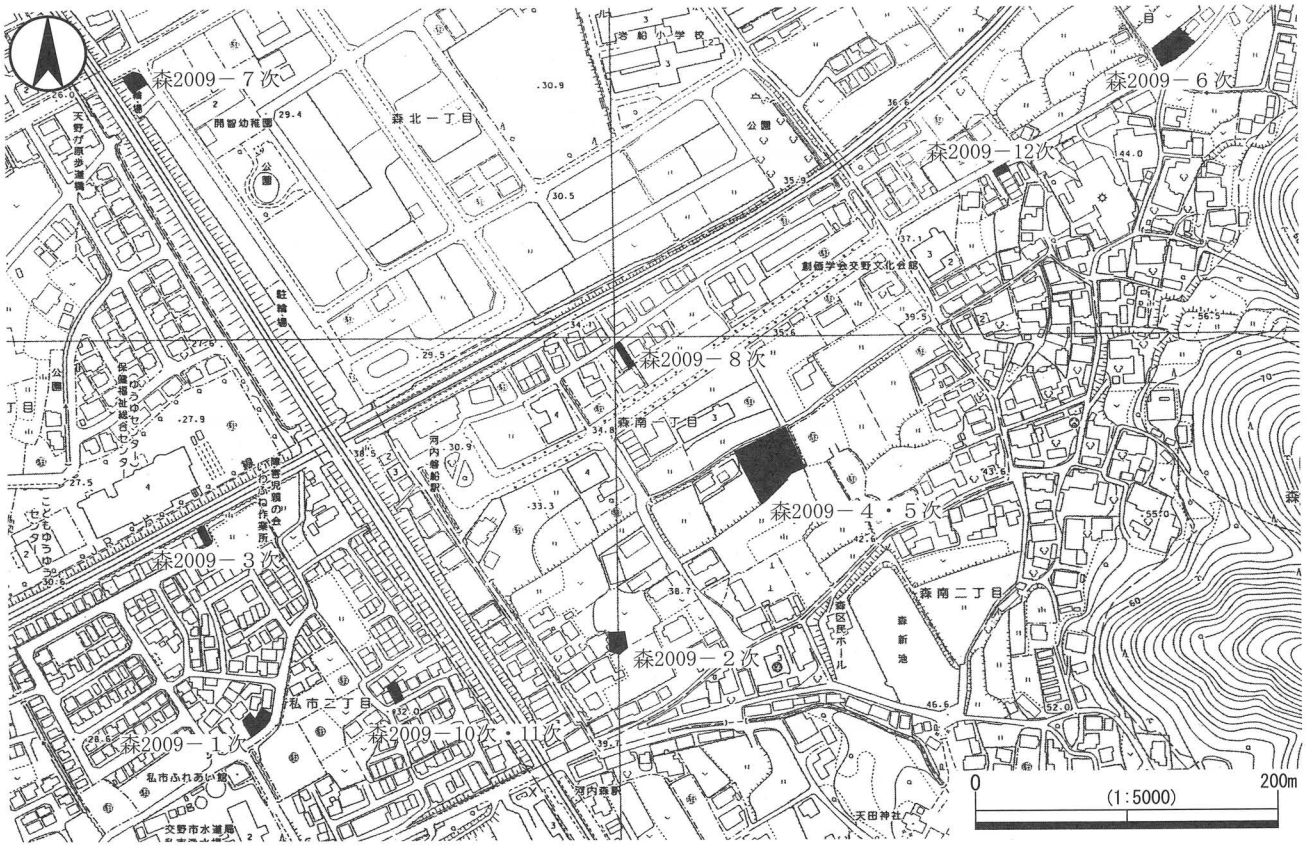
No.	調査期間	遺跡名	調査地住所	内容（調査面積・深度・遺構の有無等）
7	9月10日	上の山遺跡 2009－２次	私部西４丁目 1060－1	4.0㎡を現地表下0.6～1.0mまで重機掘削した。旧作土層と旧作土により削平された自然堆積層が確認された。遺構・遺物は検出されなかった（第28・30図）。 周辺において、同様の掘削深度で遺構・遺物が検出される可能性はある。
8	9月11日	神宮寺遺跡 2009－１次	神宮寺１丁目 201番１の一部	2.5㎡を現地表下0.7mまで重機掘削した。現代盛土と旧作土層のみで、遺構・遺物はなし。（第24・27図） 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。
9	9月11日	神宮寺遺跡 2009－２次	神宮寺１丁目 201番１の一部	1.5㎡を現地表下1.0mまで重機掘削した。遺構・遺物は確認されなかった（第24・26図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。
10	9月25日	私部城跡 2009－３次	私部６丁目 1729番－8、－9、－4の一部	1.0㎡を現地表下0.3mまで人力掘削した。現代盛土のみで遺構・遺物は検出されなかった（第12・15図）。 ただし、周辺において、同様の掘削深度で遺構・遺物が検出される可能性はある。
11	10月16日	倉治遺跡 2009－１次	倉治１丁目 1460－19	1.5㎡を現地表下0.5mまで人力掘削した。現代盛土のみで遺構・遺物は検出されなかった（第24・25図）。 現代盛土下で遺構・遺物が確認される可能性はある。
12	10月29日	森遺跡 2009－６次	森南３丁目 22番地1	第１調査区（2.5㎡）と第２調査区（2.4㎡）を設定し、現地表下0.6～0.9mまで人力掘削を実施した。現代盛土および旧作土層が認められたが、遺構・遺物は検出されなかった（第２・７図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性はある。
13	11月19日	郡津渋り遺跡 2009－１次	郡津２丁目 1603番他	5.6㎡を現地表下1.5m～2.3mまで重機掘削した。現代盛土と土壌化層が認められたが、近世以前の遺構・遺物は検出されなかった。（第20・23図） 周辺において同様の掘削深度で遺構・遺物が検出される可能性はある。

No.	調査期間	遺跡名	調査地住所	内容（調査面積・深度・遺構の有無等）
14	11月24日	森遺跡 2009－７次	森北１丁目 1－1	2.6㎡を現地表下0.7mまで人力掘削を実施した。旧作土を巻き上げた現代盛土が認められたのみで、遺構・遺物は検出されなかった（第２・８図）。
15	11月26日	私部南遺跡 2009－２次	向井田１丁目 183番16、185番34、61、62	第１調査区（2.4㎡）・第２調査区（1.4㎡）を設定し、現地表下0.6mまで人力掘削を実施した。現代盛土のみを確認し、遺構・遺物は検出されなかった（第16・18図）。
16	11月27日	森遺跡 2009－８次	森南１丁目 296番4	1.1㎡を現地表下最大1.2mまで人力掘削を実施した。現代盛土の下で旧作土層が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった（第２・９図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。
17	12月16日	森遺跡 2009－10次	私市２丁目 1114－8	第１調査区（1.5㎡）と第２調査区（1.8㎡）を設定し、現地表下0.7m～1.0mまで人力掘削した。溝を検出し、遺構埋土、旧作土中で陶磁器・瓦器・土師器・須恵器片を検出した（第２・10・40図）。 協議の上、森2009－11次として本発掘調査を実施した（本概要第２章にて報告）。
18	１月６日	坊領遺跡 2009－１次	藤が尾４丁目 120－2他	第１調査区（4.5㎡）・第２調査区（4.8㎡）を設定し、現地表下1.6～2.0mまで重機掘削を実施した。現代盛土下では、畦畔痕跡を含む旧作土層を確認した。遺物は検出されず、近世以前のものとは確定できなかった（第31・32図）。 ただし、周辺において、同様の掘削深度で近世以前の遺構・遺物が検出される可能性はたかい。
19	１月12日	私部南遺跡 2009－３次	向井田１丁目 188番8	1.8㎡を現地表下0.6mまで人力掘削した。現代盛土のみが認められた。遺構・遺物は検出されなかった（第16・19図）。

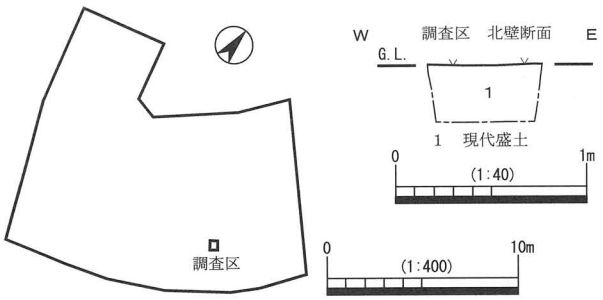
No.	調査期間	遺跡名	調査地住所	内容（調査面積・深度・遺構の有無等）
20	1月13日	交野郡衙跡 2009－1次	郡津1丁目 1967－1の一部	4.8㎡を現地表下0.5～1.0mまで人力掘削した。近世以降の遺構を検出したが、遺構の破壊は生じないことを確認した（第20・21図）。 ただし、周辺において、同様の掘削深度で近世以前の遺構・遺物が検出される可能性はたかい。
21	2月8日	交野郡衙跡 2009－2次	幾野3丁目 15－19	7.5㎡を現地表下0.2～0.3mまで掘削し、現代盛土のみを確認した。遺構遺物は検出されず（第20・22）。
22	2月17日	森遺跡 2009－12次	森南3丁目 119－11、121－7	2.1㎡を現地表下0.2～0.8mまで人力掘削した。 現代盛土下で、旧作土層と2本の溝を確認した。 溝埋土中から丸釘などの現代遺物が出土し、溝の時期を現代と判断できた。近世以前の遺構・遺物は検出されなかった（第2・11図）。 旧作土層下で遺構・遺物が確認される可能性がある。

第2表　平成21年度第93条の届出による発掘調査一覧（平成20年度届出分）

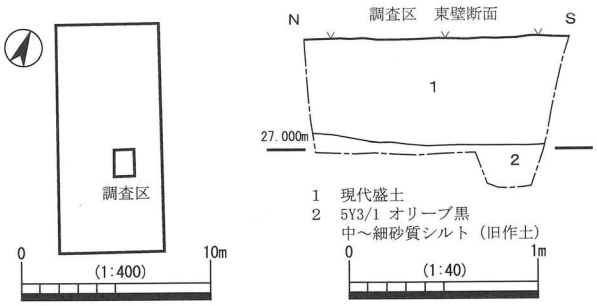
No.	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
1	4月7日	森遺跡 2009－1次	私市2丁目 1178－33、－10、 1176－1の一部	0.2㎡を現地表下0.6mまで人力掘削した。盛土のみを確認した。遺構・遺物は検出されなかった。（第2・3図）
2	5月27日 ～6月1日	森遺跡 2009－4次	森南1丁目 284番1	第1調査区（8㎡）と第2調査区（9.8㎡）を設定し、現地表下0.6～1.2mまで重機掘削した。現代作土層の下位の旧作土層を除去した面で中世の耕作痕と思われる溝群および古墳時代の土坑・溝等の遺構を検出した（第2・6図）。遺構埋土および旧作土層中で土師器・須恵器片が検出されたが、小片のため図化はしなかった。 交野市文化財事業団に委託し、森遺跡2009－5次調査として、本発掘調査を実施した。



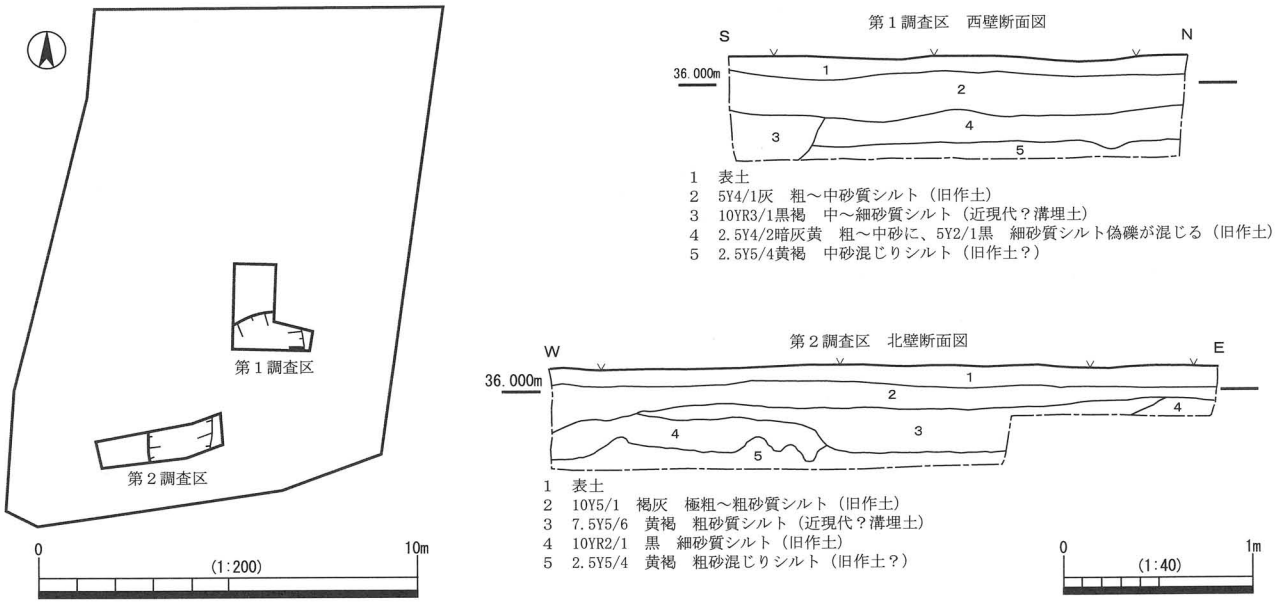
第２図　森遺跡調査地位置図



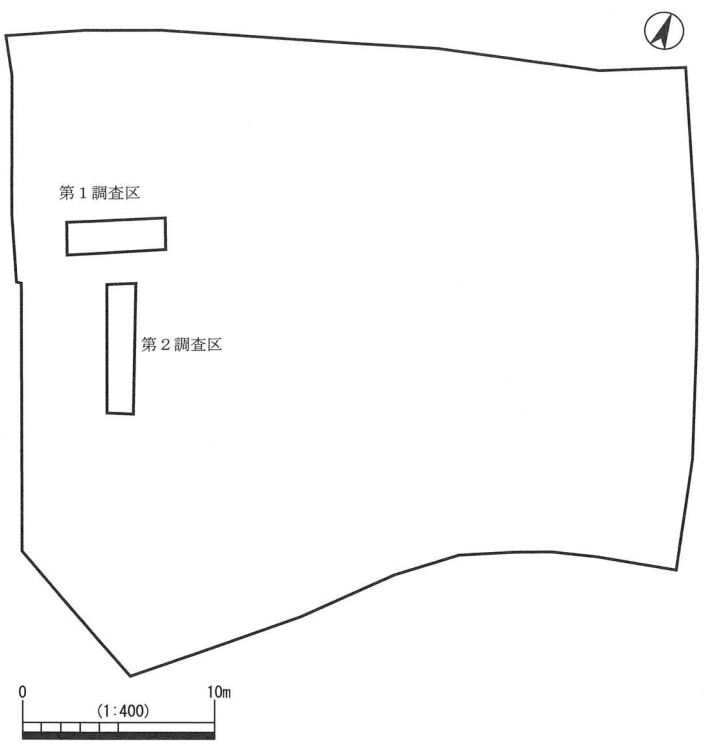
第３図　森遺跡 2009－１次　調査区平面図・断面図

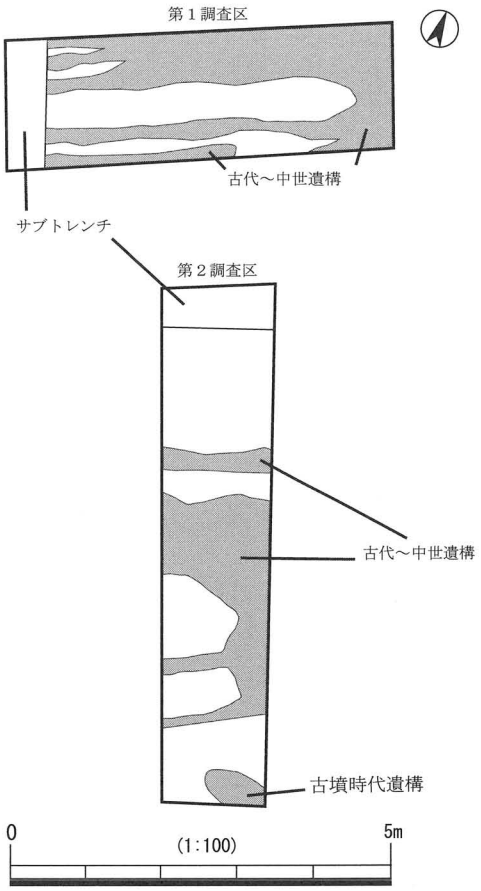


第４図　森遺跡 2009－３次調査区平面図・断面図

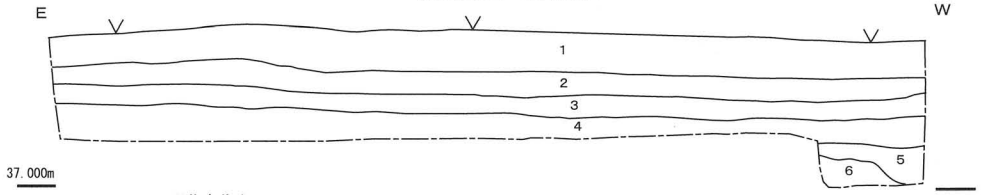


第５図　森遺跡 2009－２次　調査区平面図・断面図



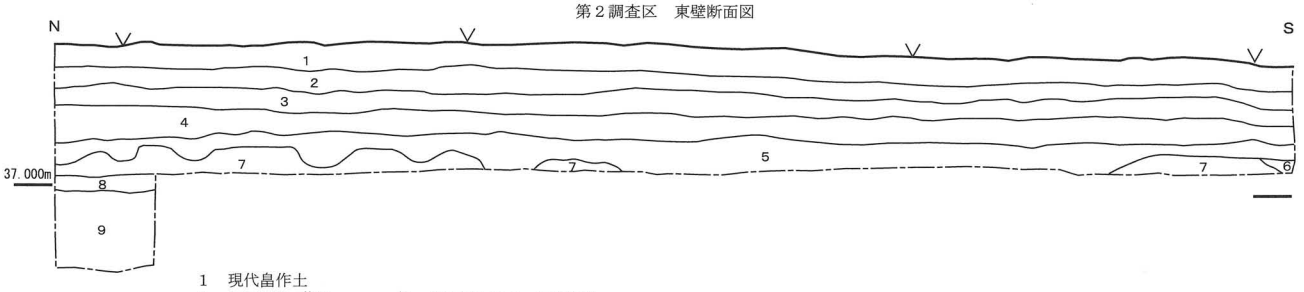


第１調査区　南壁断面図



1　現代畠作土
2　2.5Y5/6　黄褐　　粗～中砂質シルト（旧作土）
3　5Y5/2　灰オリーブ　中砂質シルト（旧作土）
4　2.5Y4/2　暗灰黄　　粗砂質シルト（旧作土）
5　2.5Y3/2　黄褐　　粗～中砂質シルト（古墳時代遺構埋土）
6　2.5Y4/2　暗灰黄　　中～細砂（氾濫堆積物？）

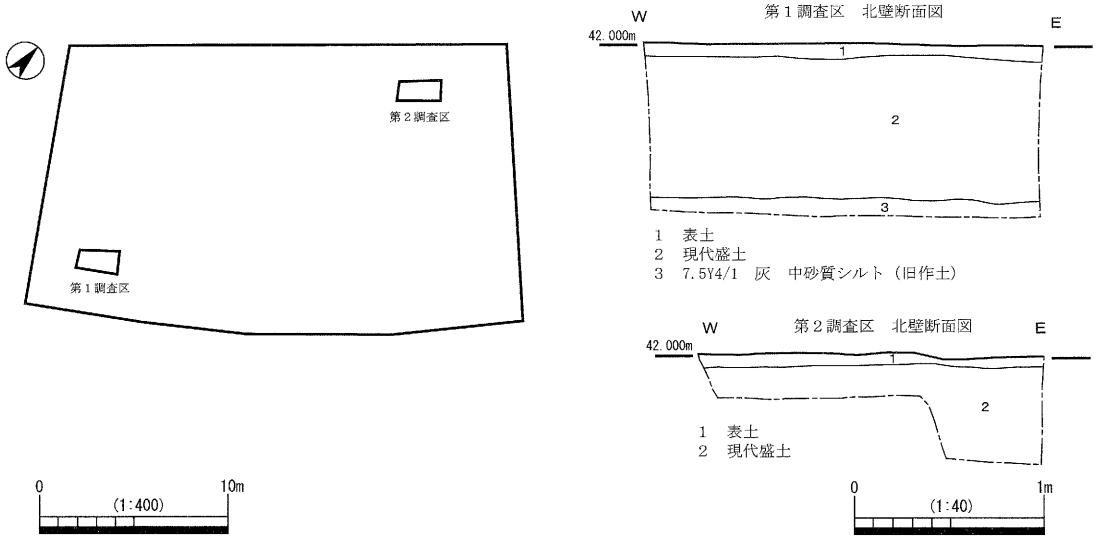
第２調査区　東壁断面図



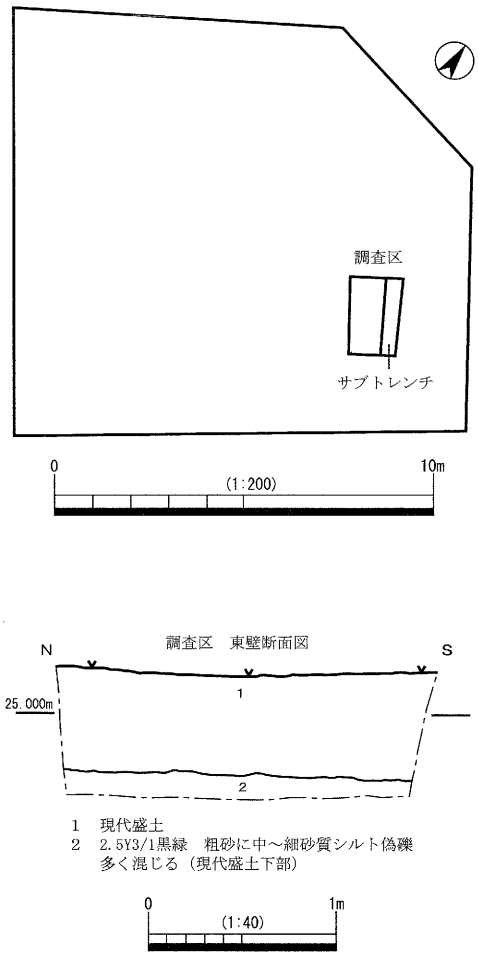
1　現代畠作土
2　2.5Y5/6　黄褐　　粗～中砂質シルト（旧作土）
3　7.5Y5/2　灰オリーブ　中砂質シルト（旧作土）
4　2.5Y5/2　暗灰黄　　中～細砂質シルト（旧作土）
5　2.5Y3/2　黒褐　　粗～中砂に６層由来の中砂質シルト偽礫が混じる（旧作土）
6　2.5Y3/1　黒褐　　中砂～細砂質シルト（古墳時代土坑埋土）
7　5Y5/4　灰オリーブ　粗～中砂（氾濫堆積物？）
8　7.5Y4/3　オリーブ褐　中砂（氾濫堆積物？）
9　7.5Y3/1　黒褐　　中～細砂混じりシルト（氾濫堆積物？）

0　1m
(1:40)

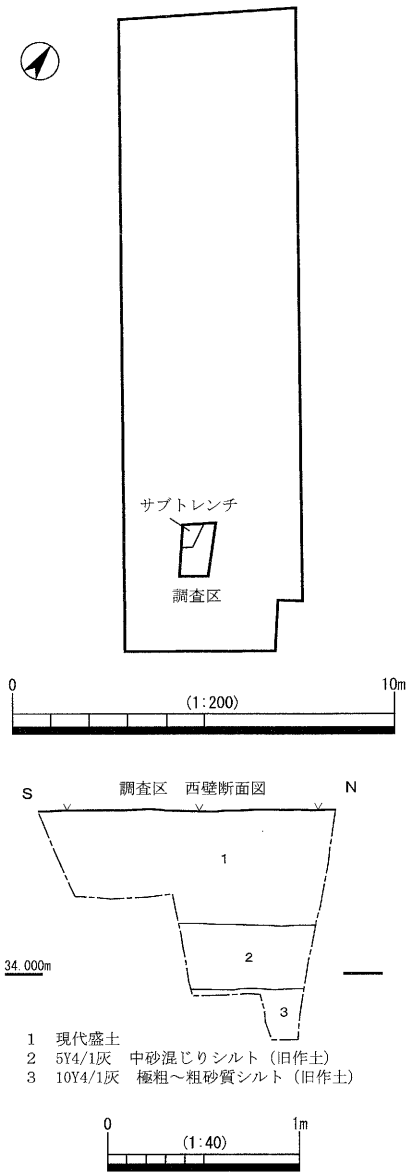
第６図　森遺跡2009－４次　調査区平面図・断面図



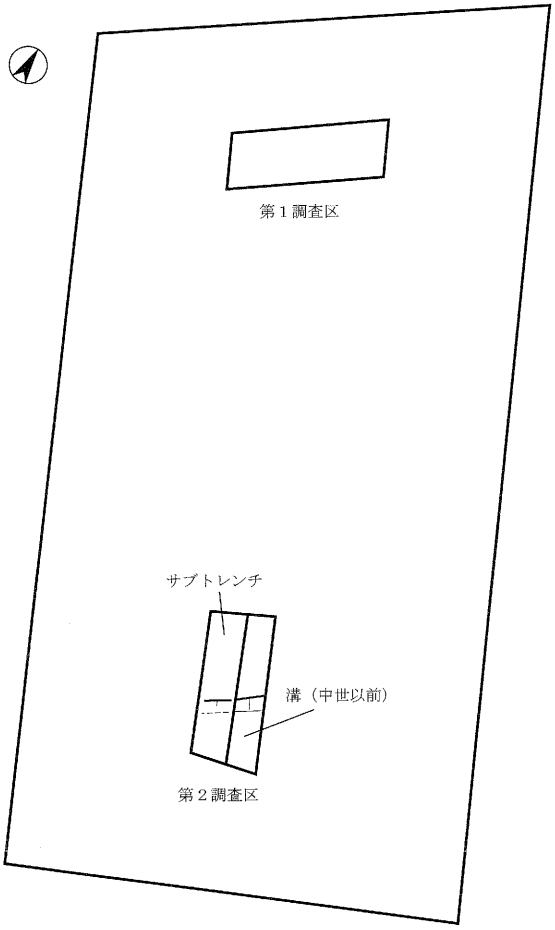
第７図　森遺跡 2009－６次　調査区平面図・断面図

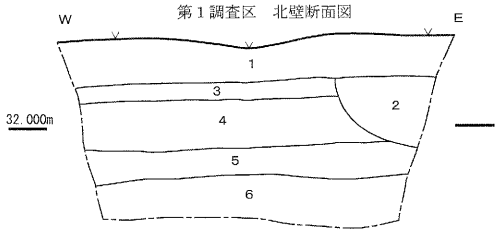


第８図　森遺跡 2009－７次調査区平面図・断面図

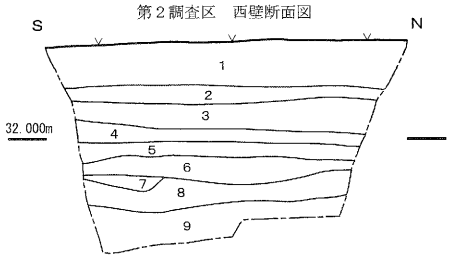


第９図　森遺跡 2009－８次調査区平面図・断面図

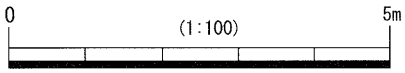


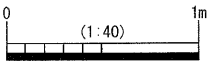


1　現代盛土
2　近～現代撹乱
3　5Y4/4　暗オリーブ　中砂質シルト（旧作土、森2009-11次調査　基本層序第１層）
4　2.6GY4/1　暗オリーブ灰　粗～中砂質シルト
　（旧作土、森2009-11次調査　基本層序第２・３層）
5　5GY4/1　暗オリーブ灰　粗砂質シルト（旧作土、森2009-11次　基本層序第４・５層）
6　10Y3/2　オリーブ黒　極粗～粗砂質シルト
　（旧作土、森2009-11次　基本層序第６・７層）

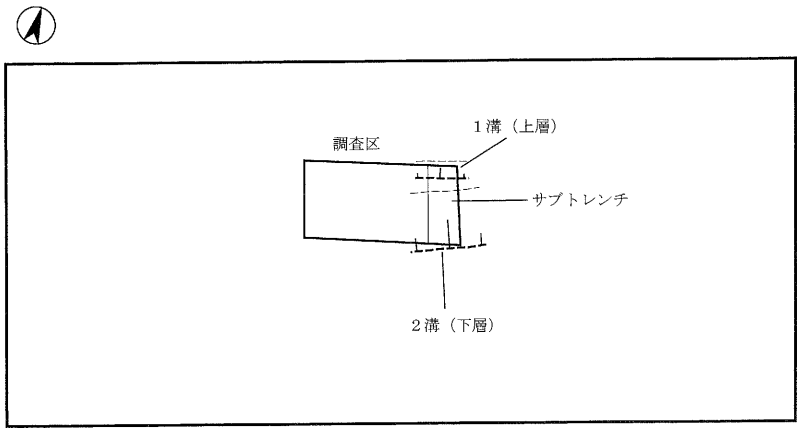


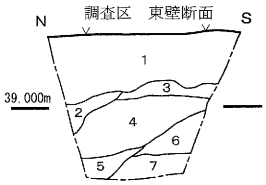
1　現代盛土
2　5Y5/2　灰オリーブ　極粗砂質シルト
　（旧作土、森2009-11次調査　基本層序第１層）
3　2.5Y4/2　暗灰黄　極粗砂質シルト（旧作土、森2009-11次調査　基本層序第２層）
4　2.5GY3/3 暗オリーブ褐　極粗～粗砂質シルト
　（旧作土、森2009-11次調査　基本層序第３層）
5　2.5Y4/2　暗灰黄　粗～中砂質シルト（旧作土、森2009-11次　基本層序第５層）
6　5Y3/2　オリーブ黒　極粗～粗砂質シルト（旧作土？、森2009-11次　基本層序第９層）
7　10YR4/1　褐灰　粗～中砂　７層に由来する拳大のシルト偽礫が混じる（溝埋土）
8　5Y5/2　灰オリーブ　極粗砂（氾濫堆積物、森2009-11次　基本層序第12層上部）
9　5GY5/1　オリーブ灰　極粗砂～粗砂
　（氾濫堆積物、森2009-11次　基本層序第12層下部）



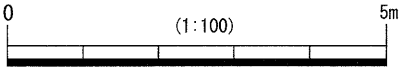


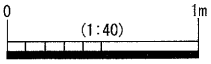
第 10 図　森遺跡 2009－10 次　調査区平面図・断面図



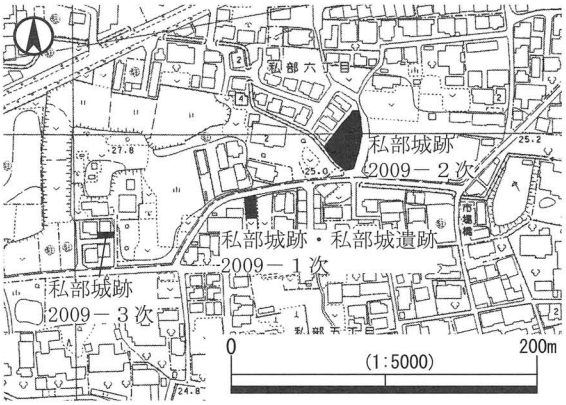


1　現代盛土
2　10Y3/1　オリーブ黒　粗～中砂質シルト
　（１溝埋土）
3　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　中砂質シルト
　（旧作土）
4　5GY9/1　暗オリーブ灰　粗砂～中砂質シルト
　（２溝埋土上部）
5　10GY4/1　暗緑灰　中～細砂質シルト
　（２溝埋土下部）
6　2.5GY5/1　オリーブ灰　粗砂質シルト
　（旧作土）
7　5GY4/1　暗オリーブ灰　極粗～粗砂質シルト
　（旧作土？）

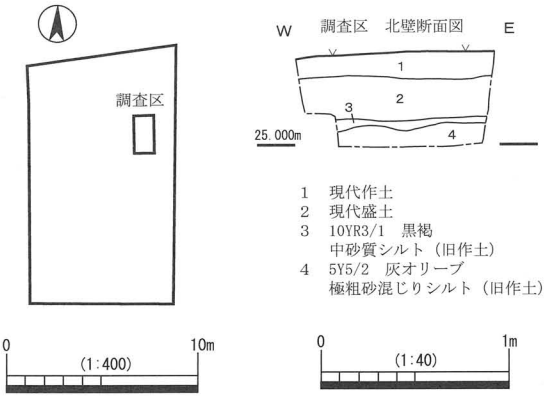




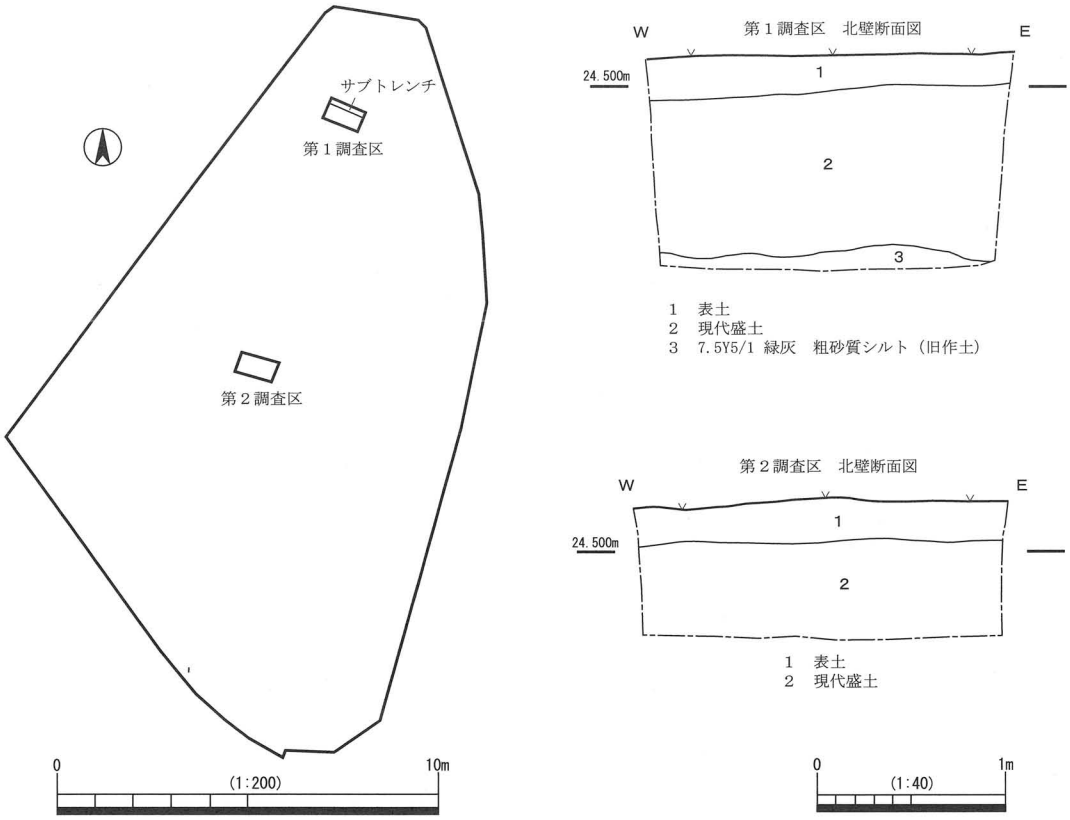
第 11 図　森遺跡 2009－12 次　調査区平面図・断面図



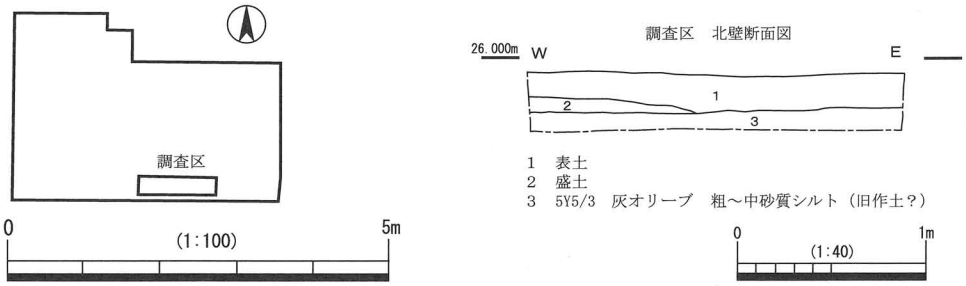
第 12 図　私部城跡・私部城遺跡調査地位置図



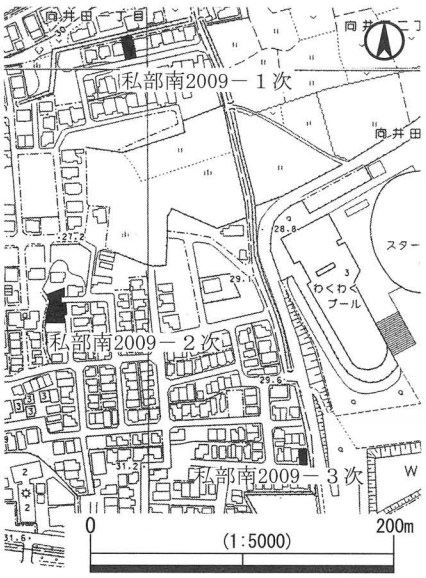
第 13 図　私部城跡・私部城遺跡 2009－1次
調査区平面図・断面図



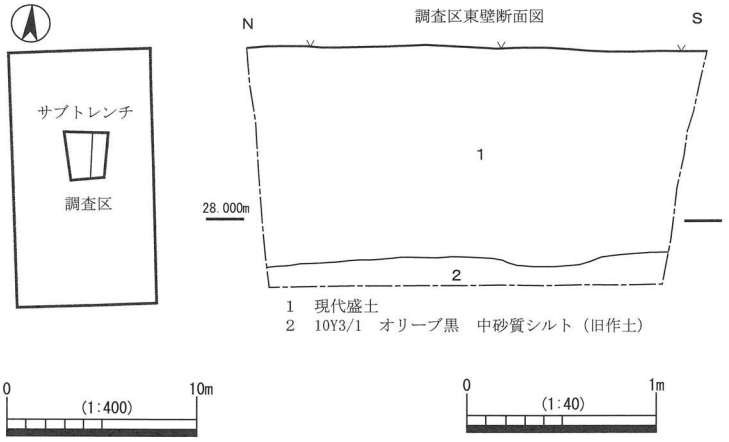
第 14 図　私部城跡 2009－2次　調査区平面図・断面図



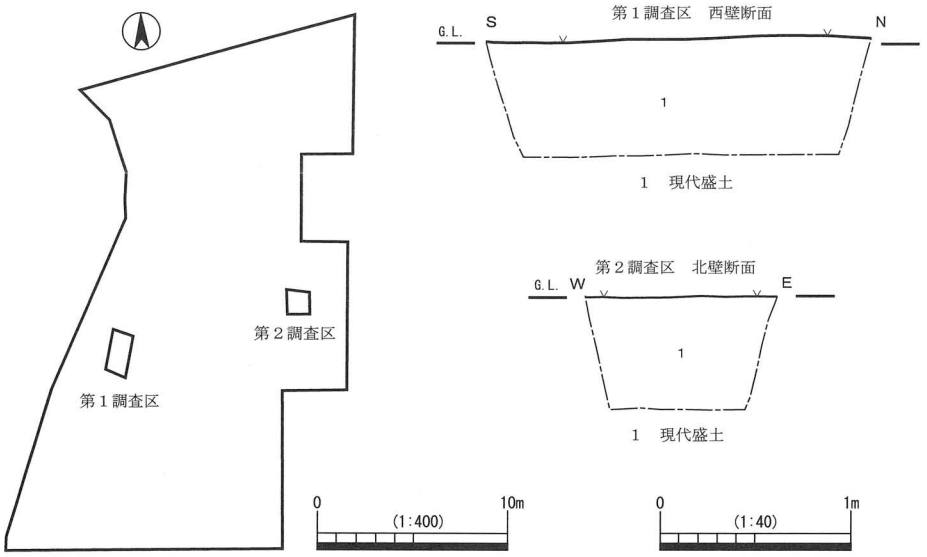
第 15 図　私部城跡 2009－3次　調査区平面図・断面図



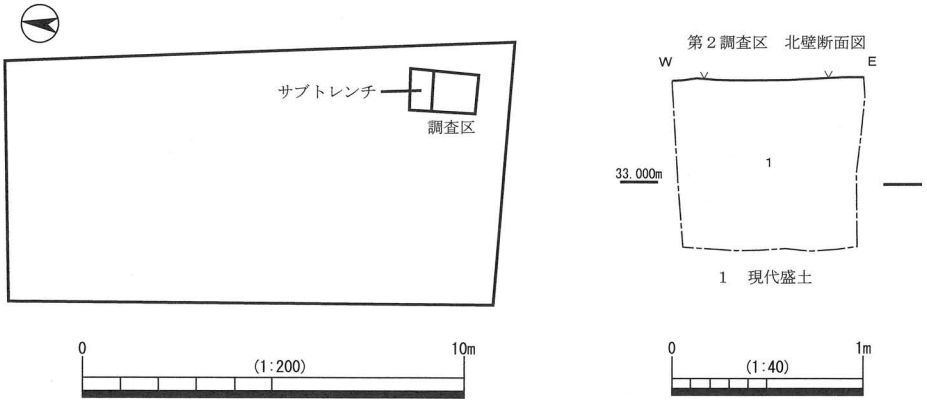
第 16 図　私部南遺跡調査地位置図



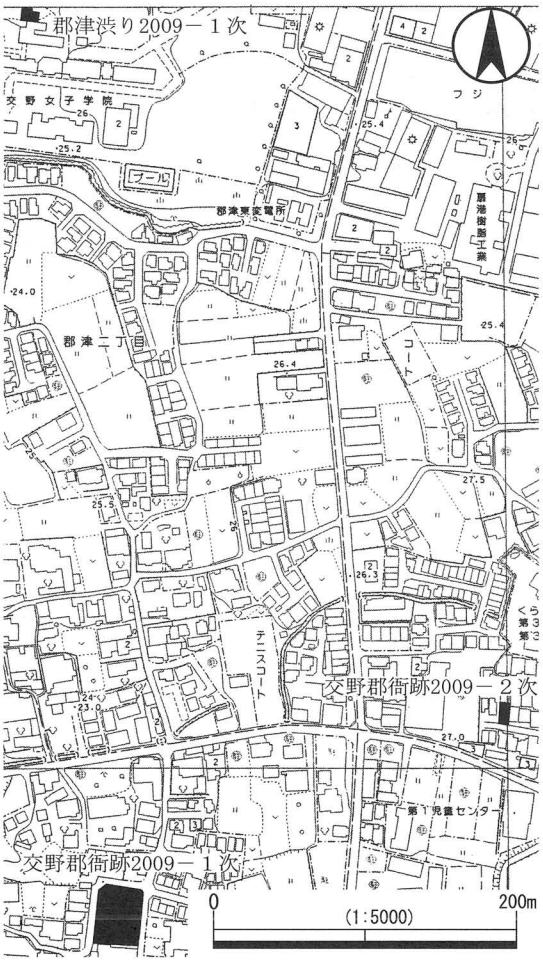
第 17 図　私部南遺跡 2009－１次　調査区平面図・断面図



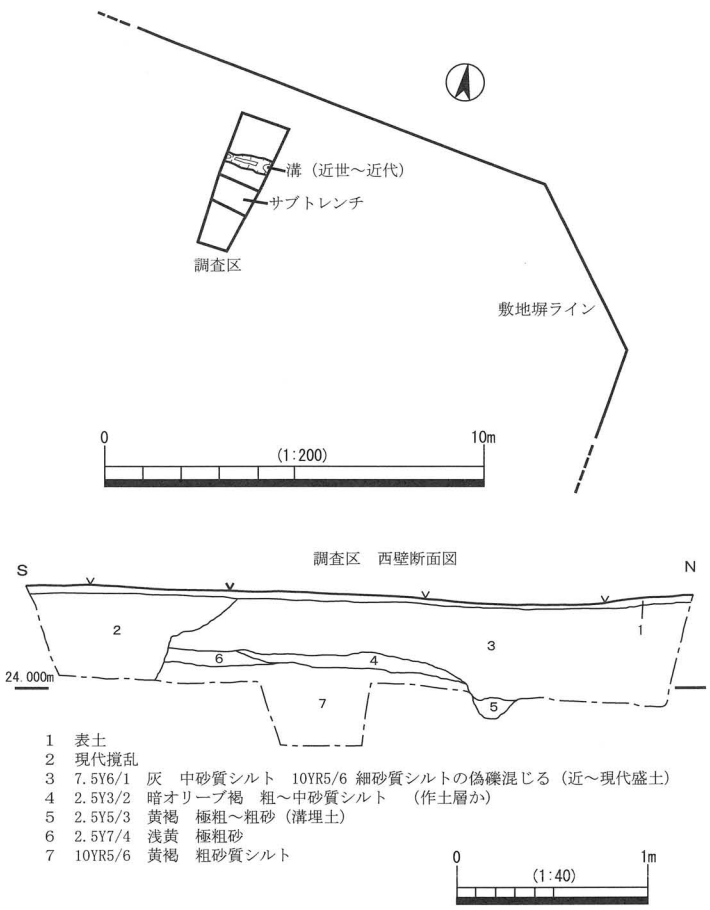
第 18 図　私部南遺跡 2009－２次　調査区平面図・断面図



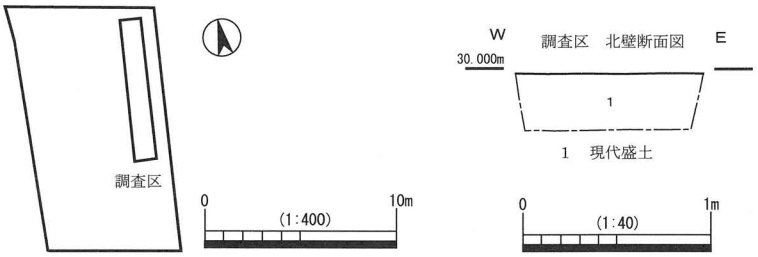
第 19 図　私部南遺跡 2009－３次　調査区平面図・断面図



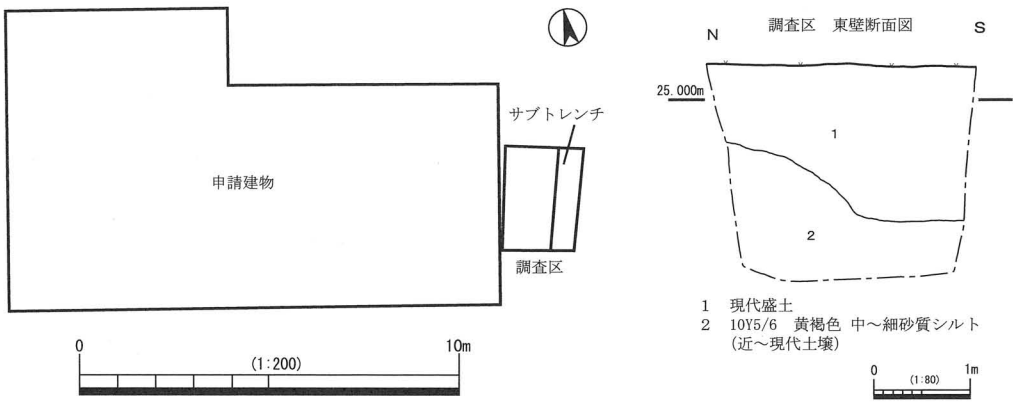
第20図　交野郡衙跡・郡津渋り遺跡
調査地位置図



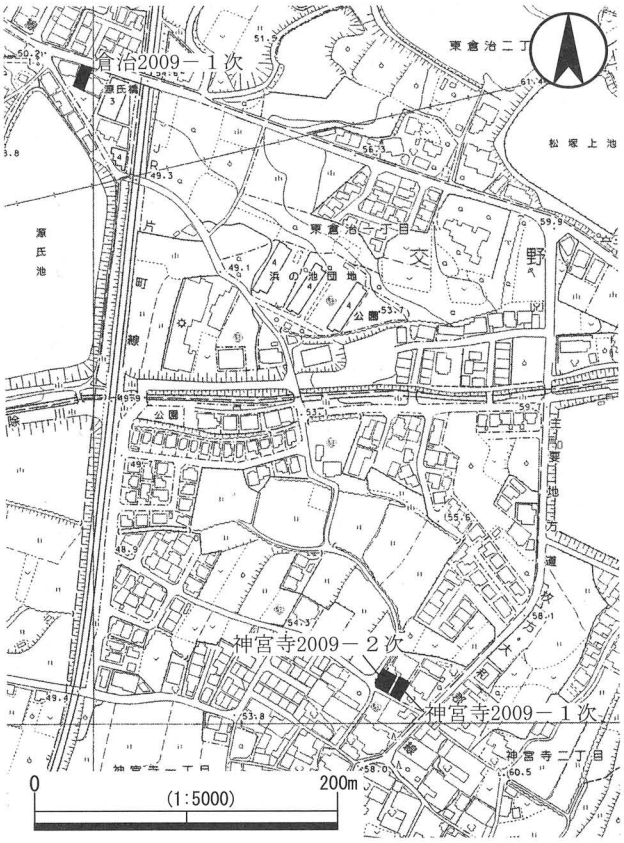
第21図　交野郡衙跡2009－1次　調査区平面図・断面図



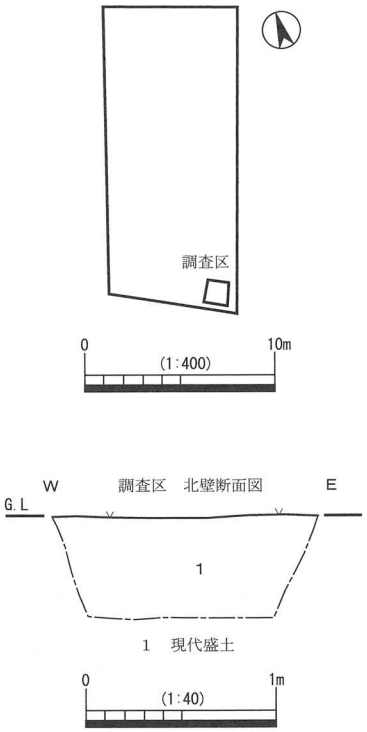
第22図　交野郡衙跡2009－2次　調査区平面図・断面図



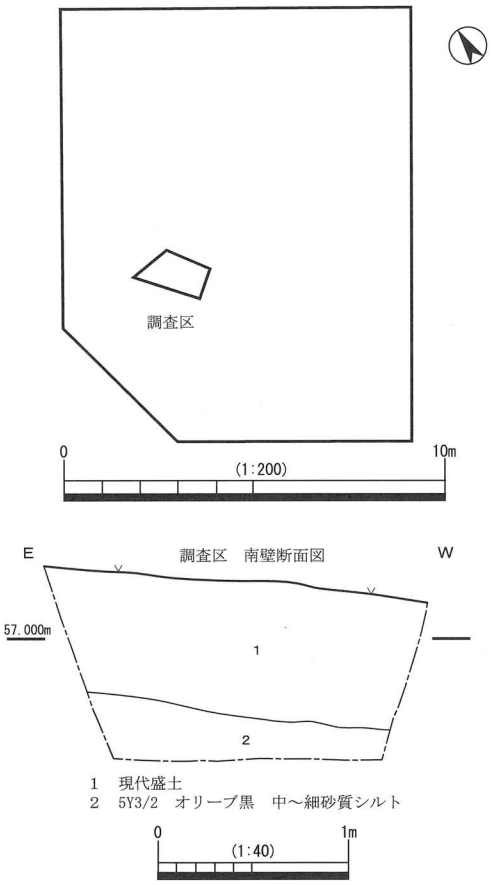
第23図　郡津渋り遺跡2009－1次　調査区平面図・断面図



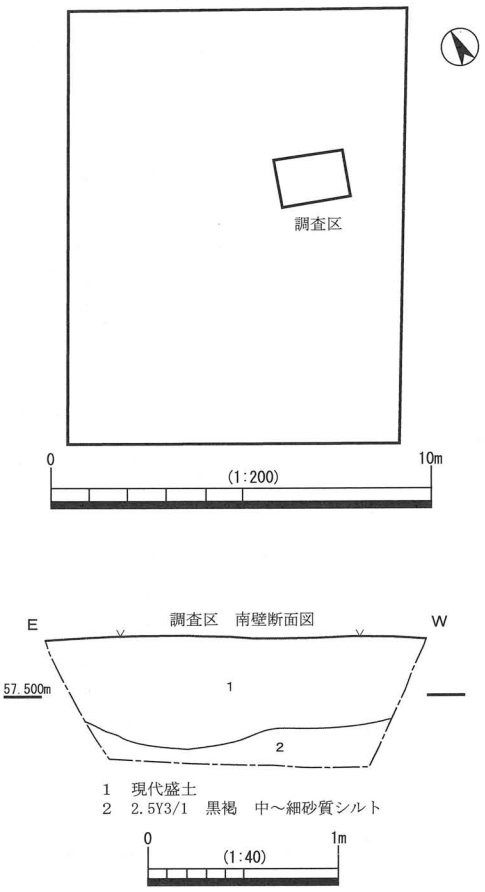
第 24 図　倉治遺跡・神宮寺遺跡調査区位置図



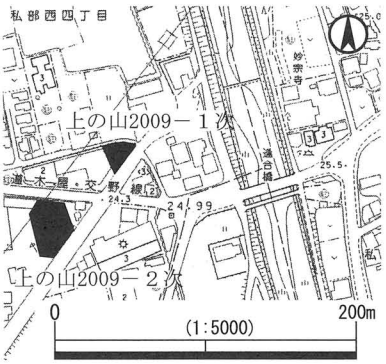
第 25 図　倉治遺跡 2009－１次
調査区平面図・断面図



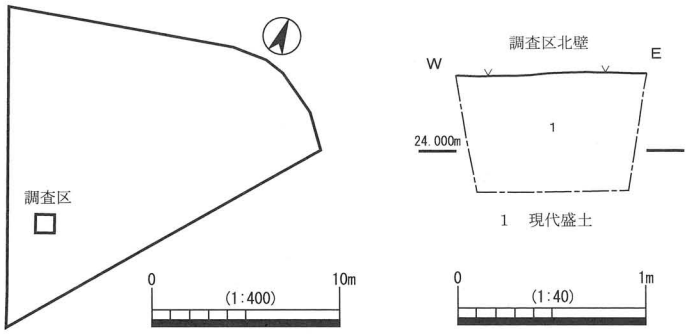
第 26 図　神宮寺遺跡 2009－２次
調査区平面図・断面図



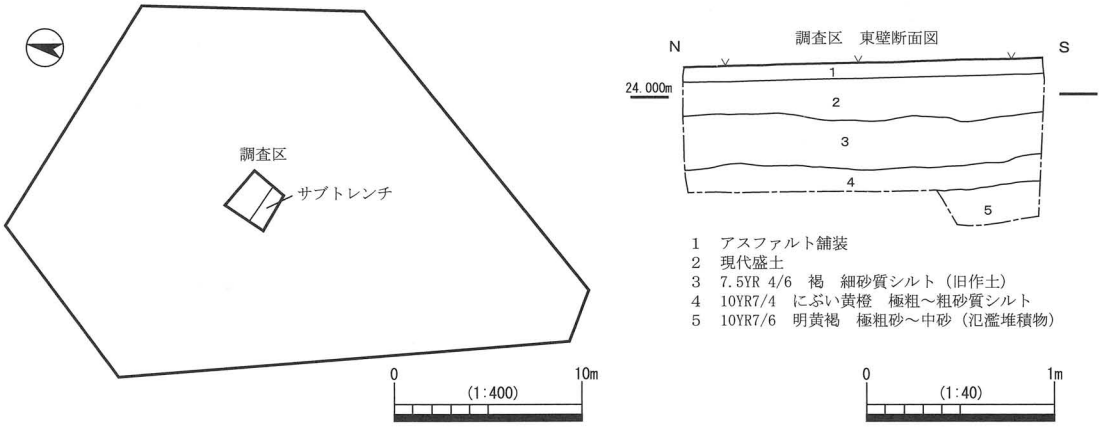
第 27 図　神宮寺遺跡 2009－１次
調査区平面図・断面図



第 28 図　上の山遺跡調査区位置図

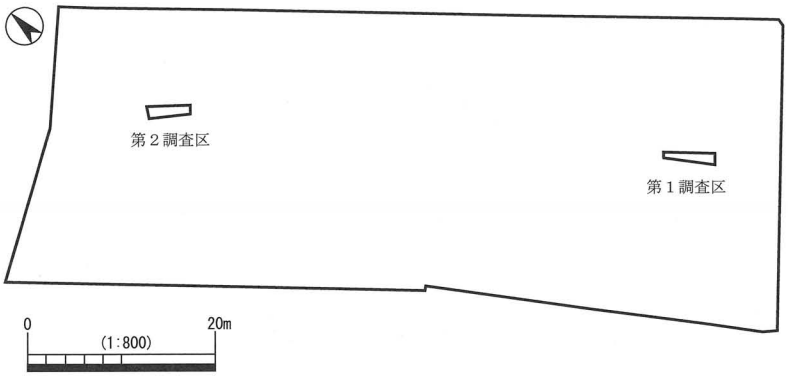


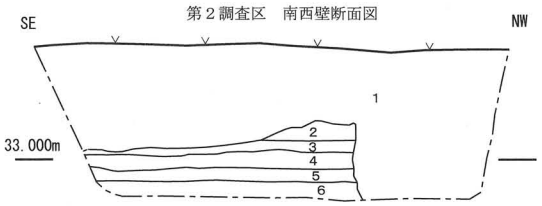
第 29 図　上の山遺跡 2009－１次　調査区平面図・断面図



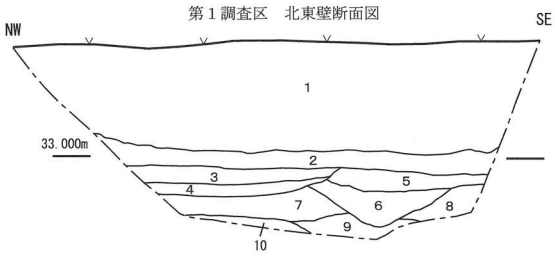
第 30 図　上の山遺跡 2009－２次　調査区平面図・断面図

第 31 図　坊領遺跡調査区位置図





1　現代盛土
2　10Y2/1　灰オリーブ　極粗～粗砂質シルト（旧作土?）
3　5Y4/2　灰オリーブ　極粗～粗砂質シルト（旧作土）
4　7.5Y4/2　灰オリーブ　中～細砂質シルト（旧作土）
5　5Y4/4　暗オリーブ　細砂質シルト（旧作土）
6　10YR4/4　灰　極細砂質シルト（旧作土）



1　現代盛土
2　7.5Y4/1　灰　中～細砂質シルト（旧作土）
3　5Y4/2　灰オリーブ　極粗～粗砂質シルト（旧作土）
4　7.5Y6/1　灰　粗～中砂質シルト（旧作土）
5　5Y5/2　灰オリーブ　シルト偽礫混じり極粗～粗砂（旧作土）
6　10Y4/1　灰　シルト混じり極粗～粗砂（溝埋土？）
7　5Y3/2　オリーブ黒　極粗～粗砂（旧作土）
8　5Y5/3　オリーブ黒　極粗砂（旧作土）
9　5Y7/1　灰白　極粗砂（溝埋土？）
10　2.5GY6/1 オリーブ灰　粗砂（氾濫堆積物）

0　1m
(1:40)

第 32 図　坊領遺跡 2009－１次　調査区平面図・断面図

第２章　森遺跡 2009－11 次発掘調査概要報告

第１節　調査に至る経緯と経過

（１）調査に至る経緯

森遺跡の概要　森遺跡は、交野市森南、森北、私市に所在する遺跡である。生駒山地から交野台地南縁の平野部の間の低位段丘上に立地する。昭和 61 年度から平成３年度にかけて実施された JR 河内磐船駅前の道路整備に伴う事前調査をはじめとして、交野市教育委員会が発掘調査を実施してきた。

既往の調査により、森遺跡では弥生時代終末期には集落の痕跡が認められ、古墳時代前期から遺構・遺物が増加する。古墳時代中期に入ると、鍛冶炉跡・鉄滓・羽口などの鍛冶関連遺物が多く残されており、集落内で鍛冶生産が行われていたことが明らかにされている。北河内地域でも多くの前期・中期古墳が交野市内で築造された背景を考えるときに、前期の森古墳群と中期の交野車塚古墳群の近隣で、古墳群形成時期に集落・鍛冶生産を営んでいた森遺跡の位置づけは重要である。

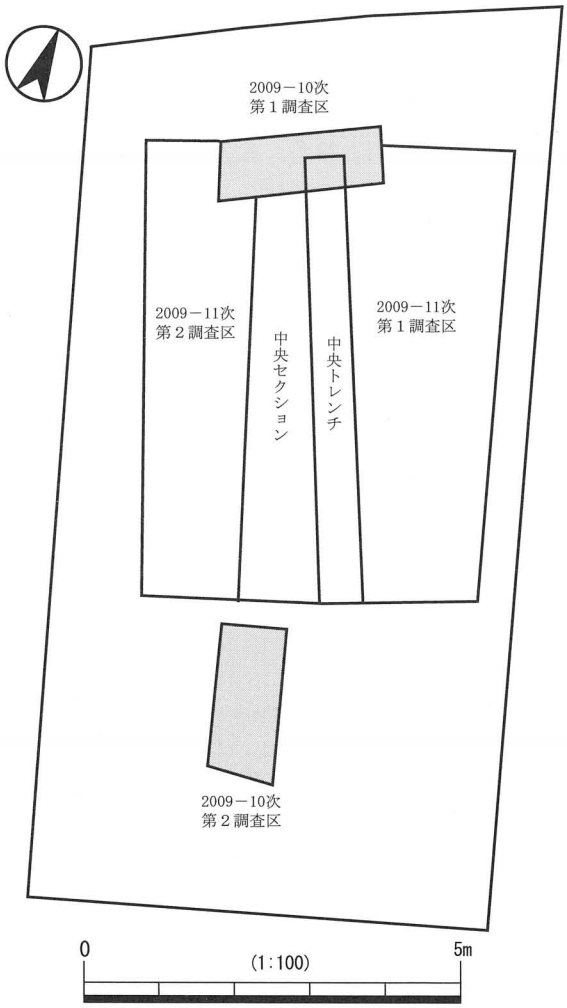
古墳時代以降の成果としては、平安時代の遺構と遺物が集中する地域が認められることから、三宅山荘園および石清水八幡宮領との関連が指摘されている。

調査に至る経緯　第１章の第１表の No. 17 および第２・10・40 図に示したように、森遺跡 2009－10 次調査において、中世以前の遺構と遺物が検出され、個人住宅の建て替えに伴う土地改良により、遺構・遺物が破壊にさらされることが確認された。この 2009－10 次調査の成果を受けて、原因者と交野市教育委員会の間で、開発の処置について協議をおこなったところ、計画変更等による遺跡の保護が不可能であるとの結論にいたった。このため、国庫補助事業のもと、交野市教育委員会により、森遺跡 2009－11 次調査として土壌改良範囲の発掘調査を実施することが決定した。

（２）調査の経過

調査は、平成 22 年１月７日から平成 22 年２月５日にわたって実施した。以下に調査区設定および調査の過程を記載する。

調査区の設定　第 33 図に調査区位置図を示した。まず、重機の可動範囲・周辺住居への影響を考え、土壌改良範囲より若干狭い面積で調査範囲を設定した。次に、2009－10 次調査における２つの調査区間で、堆積状況が大きく異なっていたため、幅 0.6m の中央トレンチを掘削し、調査区の南北縦断面の観察により、下層の堆積状況を確認した。そして、廃土置き場と重機の可動場所の確保のため、中央



第33図　森2009－11次　調査区位置図

トレンチより東を１区、西を２区として２分割し、１区の調査を実施した後に、２区の調査を行った。

調査の過程　調査区設定と、中央トレンチの掘削・断面観察の後に、遺構検出の可能性が低いと判断した基本層序第５層中（本章第２節）まで小型バックホウにより掘削した。第５層下面以下で、人力による精査と遺構検出を実施し、遺構写真撮影と平面図・断面図の作成を繰り返し実施した。第１区で土壌改良予定深度までの調査を終えた後、小型バックホウによる第１区の埋め戻しの後、第１区と同様の手順により第２区の調査を実施した。ただし、調査担当者の不手際により、第１区の南側では、バックホウによる掘削深度が深くなり第９層まで達したため、第５層下面での検出作業ができなかった。また、１区の埋め戻しから２区の重機掘削の際に、断面観察用の中央トレンチが埋没するとともに、湧水のために復原困難になったため、中央の南北断面は、トレンチと反対側の中央セクション東壁を利用して作成した。

第２節　基本層序

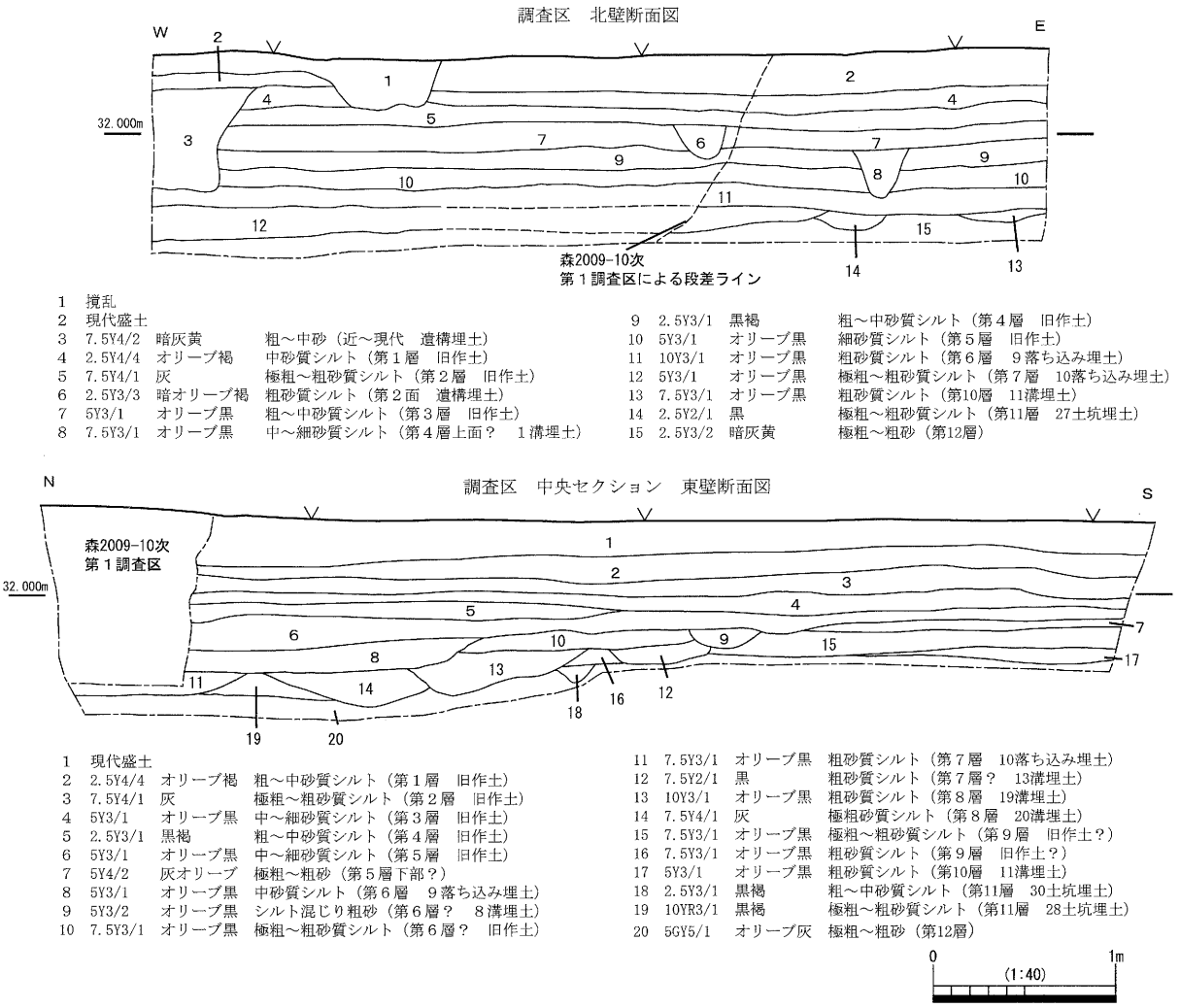
調査区内の基本層序を、第 34 図に示した調査区北壁と中央セクション東壁断面図に即して述べる。現代盛土以下の最上層を第１層とし、以下、調査区全面に分布する作土層から、遺構埋土のみを確認した層まで番号を設定した。以下、「第○層」と示す場合、基本層序番号を指す。

第１～５層　層相と、調査区全域に分布する状況から旧作土と判断した。各層中・下面で耕作に関係する溝が検出された。第４層中で、瓦器椀・土師器皿など中世遺物の出土がほぼ認められない点を考慮すると、第４層以上は、中世までさかのぼる可能性は低く、おおむね近世以降現代までの形成とみられるが、詳細は不明である。第５層下部では、陶磁器片、瓦器椀片など、土師器小皿も出土しており、おおむね中世後期以降から近世に形成されたと推測される。

第６層　調査地北側の落ち込みに堆積する層である。層相から作土層であると考えられる。調査地南側は第５層により削平され、８溝が第６層の耕作時に機能していたものである可能性があるのと、畦畔部分の残存である可能性が有る部分があるが、調査地南側では第５層により削平され遺存しない。同層中では瓦器椀片が含まれ、中世前期以降に形成されたものと推測される。ただし、古墳時代の須恵器片など下層から巻き上げられたとみられる遺物も一定数出土した。

第７層　第５・第６層の下面にて、調査区北側の10落ち込み埋土として確認された作土層など耕作関連とみられる遺構埋土である。層の上部は第６層以上により削平されている。瓦器椀片等を含み中世以降の形成と見られる

第８層　南北に伸びる２本の溝の埋土である。第６層以上に削平されるのは第７層と同様だが、平面・断面の切り合い関係から第７層と区別した。同層中では瓦器椀などの出土は認められないが、第９層との切り合い関係から中世前期以降に形成された層とみられる。



第34図　森2009－11次　調査区断面図

第９層　調査地南側でのみ認められる土壌化層である。同層中では、白磁椀が出土しており、中世前期以降に形成されたとみられる。

第 10 層　第９層の下で検出された溝の埋土である。埋土中の遺物出土はわずかながら土師器小片のみが認められ、中世以降に下る可能性は低い。古墳時代から古代の時期幅におさまるとみられる。

第 11 層　第９層以上の遺構埋土を除去した面で検出したピット、土坑などの遺構埋土である。弥生時代以降古代までの時期幅があるとみられ、遺構の時期は細分される可能性がある。

第 12 層　第 10 層以下に厚く堆積する極粗砂～粗砂である。工事による土壌改良の最深部より深く、第 12 層以下の状況は本調査では未確認である。遺物は検出されず堆積時期の詳細は不明である。

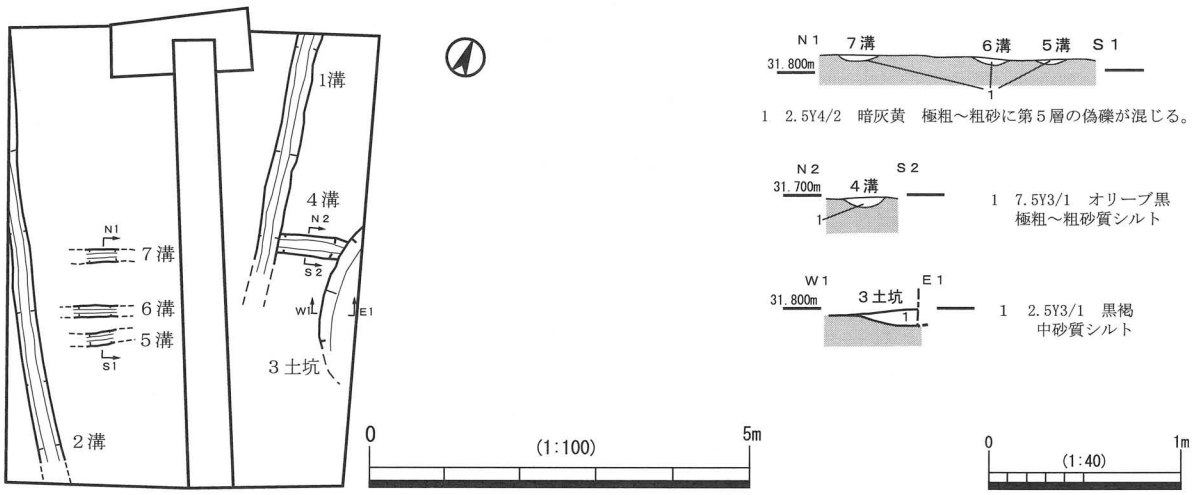
第３節　遺構

（１）遺構の概要

大別すると、①中世後期～近世以降（基本層序第１～５層）、②中世前期～後期（第５～９層）、③古代以前（第 10 層以下）の３時期の遺構を検出した。遺構の多くは、後世の耕作により上部を削平されているため、これらの遺構は３面ほどの検出作業面で検出された。断面観察と平面での切り合関係から、遺構の帰属層を整理し、第 35～36 図に遺構平面・断面図を示した。

（２）第１～５層（中世後期～近世以降）の遺構

第５層下面の精査時に第１～５層中の遺構を検出した。第 35 図に平面と断面図を示した。



第 35 図　第１～５層遺構平面図・断面図

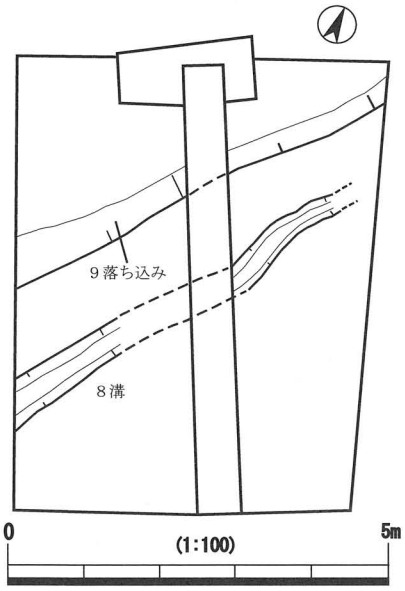
1溝は第３層に上部を削平された溝である。出土遺物が数点あるが、全て摩耗した小破片であることなどから下層からの巻き上げと判断した。**2溝**は、第５層下面の溝である。**3土坑**は出土遺物からは時期比定が困難であったが、２溝との切り合い関係により、比較的新しい時期の遺構と推定できる。**4溝**は、３土坑と１溝により切られる。**5～7溝**の埋土は、第５層下部の極粗～粗砂に下層由来の砂質シルトが混じる。等間隔に並ぶことや、同時期の主要な溝である２溝と直交していることなどから、第５層耕作時の畝間の溝の可能性がある。

（３）第６層～９層（中世前期～後期）の遺構

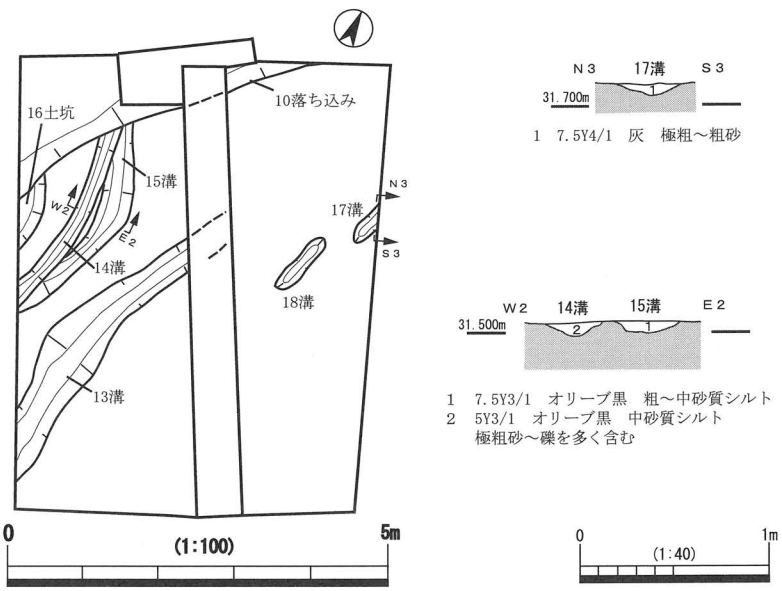
第５層以上の溝と方向は大きく違えるが、第６層～９層の遺構の多くもまた周辺作土層と様相が類似する砂質シルトを埋土とするものが多く、耕作にともなうものとみられる。

第６層　第５層の遺構を掘削後、**9落ち込み**と**8溝**を検出した。両者は並行して北東から南西方向に伸びる。ともに遺構上部が削平されているが、両者の間には畦畔が存在した可能性がある。

第７層　**9落ち込み**より北で**10落ち込み**を検出した。層相と分布状況から、作土と推測される。**10落ち込み**と並行して伸びる**13溝**も同時期のものと推測される。**18溝**は、**8溝**に切られることから、第７層遺構と判断した。底部の標高・方向が類似する**17溝**もまた関連するものとみられる。**15・14溝**と、**16土坑**は、切り合い関係から**10落ち込み**より先行する可能性があるが層相は類似することと、出土遺物もなく、**17溝**との時期差が不明瞭であるため第７層遺構とした。



第36図　第６層遺構平面図



第37図　第７層遺構平面図・断面図

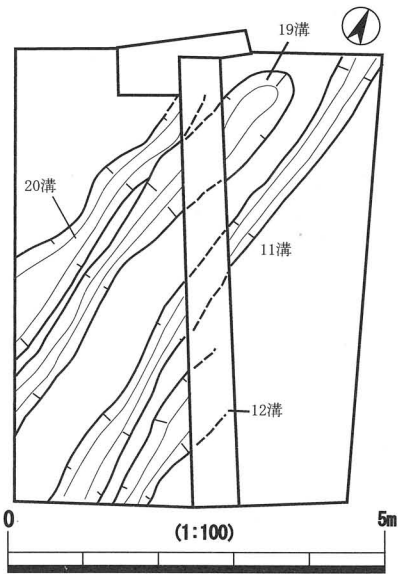
第８層　19 溝は、第 10 層遺構と同様に南北方向に掘りこまれている。土師器片が検出されており、白磁椀を含む第９層を切ることから、中世前期に形成されたとみられる。19 溝に切られる **20 溝**では出土遺物がない。層相と遺構底部の標高の類似から同層の遺構としたが、先後関係は明確にあり、大きな時期差をもつ可能性はある。

第９層に帰属する明確な遺構は検出していない。

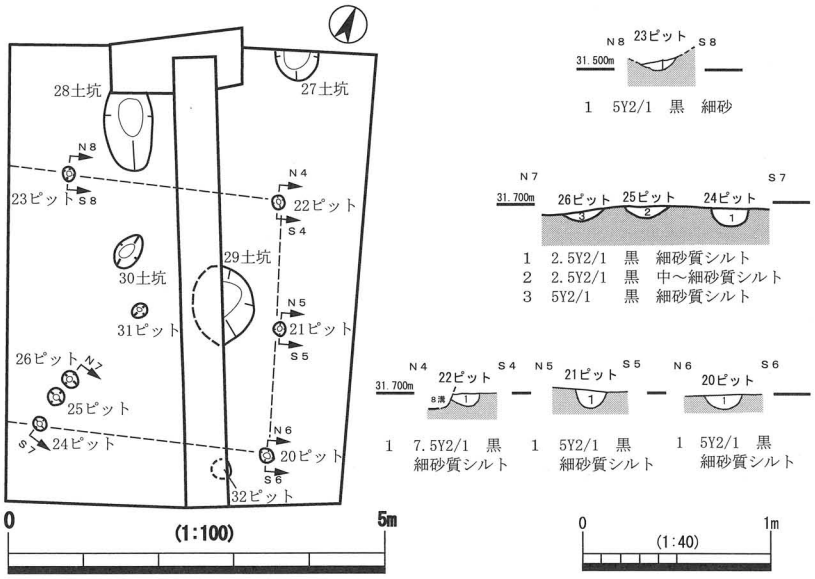
（４）第 10 層～12 層（古代以前）の遺構

第 10 層　南北方向に掘り込まれた **11 溝**と **12 溝**は、切り合い関係から、本調査地において最初に南北方位を指向して形成された溝であり、当地の大規模な耕作地化の開始を示す遺構である可能性がある。その時期は、埋土中に中世遺物が含まれず、古墳時代の須恵器杯身を含むことから、おおむね古墳時代から古代までの時期幅が考えられる。周辺の調査成果をふまえた位置づけが必要になる。

第 11 層　層相が類似することと、切り合いがないために各遺構間の先後関係を確認できなかったことから、第 10 層までを除去した面で検出した遺構を第 11 層の遺構として一括した。わずかな出土遺物の内容や、ピット間の底部標高の高低差などから強いて推測すると、①**25 ピット**他の浅く、径の広いピット群が 11 層中で最も新しく、②掘立柱建物痕跡とみられる **20～24 ピット**群、③**27～30 土坑**の順に形成時期が古く遡るとみられる。



第 38 図　第８～ 10 層遺構平面図



第 39 図　第 11 層遺構平面図・断面図

①25・26・31・32 ピットはその掘り込みの浅さから、11 層中の遺構では最も新しい時期に形成された可能性がある。これらの次の掘立柱建物群のピットにくらべ残存径が大きい。位置関係から建物跡などの遺構の存在を推定するには至らなかったが、25・26・31 ピットの並びが上層の 11 溝などと方向が近いことから上層の遺構にともなうものである可能性もある。②20～24 ピットは、T.P.31.550m 前後、残存径が 16～20cm 程度と、掘り込みが深く残存径が小さい。これらはその位置関係から、東西方位の掘立柱建物の痕跡と見られる。③27～30 土坑は上部を大きく削られ、下部がわずかに残る。いずれの埋土も層相はシルト偽礫を含む黒色系の粗砂質シルトである。27 土坑で弥生土器甕の口縁部片が、30 土坑で弥生土器とみられる小片が検出されるとともにピット群に比べ底部標高の低さなどからも、11 層中の遺構でも最も古い時期の形成であるとみられる。

なお、土壌改良の深さにあわせて第 12 層中で調査を終了したが、第 12 層以下において、弥生時代以前の遺構・遺物が検出される可能性はある。

第４節　遺物

（１）遺物の概要

本調査では、中世の瓦器・土師器を中心として、わずかに中世の陶磁器と銭貨や、古墳時代の須恵器、弥生土器が出土した（第 40 図）。古代以前の遺物量と中世以降の遺物量の比率は１対９程度である。古代以前の層の上部が大きく削られていることを考慮しても古代以前の遺物量は少ない。

出土状態は悪く、確実に原位置を保つものは認められない。大半は器表面の摩滅が著しい小片で図化可能なものは少なかった。第６層をはじめとした作土層中では、古墳時代の須恵器片までが含まれ、古代以前の層の上部が削平された際に、遺物が巻き上げられたものとみられる。

出土遺物のうち、口径の復元を行い、安定した数値が得られたものに関しては、反転して復元図を示した。径復元不能なものについては、各層の時期比定のてがかりになると判断したものを中心に、断面と内外面の調整を示した。出土遺物の記載・時期比定の際には以下の文献を参考にした。

参考文献　（編著者名　五十音順）

尾上実・森島康雄・近江秀俊 1995「瓦器椀」『概説　中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会編、中世土器研究会

百瀬正恒・近江秀俊 1995「近畿」『概説　中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会編、中世土器研究会

山本信夫 1995「中世前期の貿易陶磁」『概説　中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会編、中世土器研究会

（2）第１～５層の遺構・層の出土遺物

３土坑出土遺物　１は土師器甕口縁部片で、外面にヨコナデを施す。このほかには、第１～４層中出土遺物は少なく、図化しうるものはなかった。

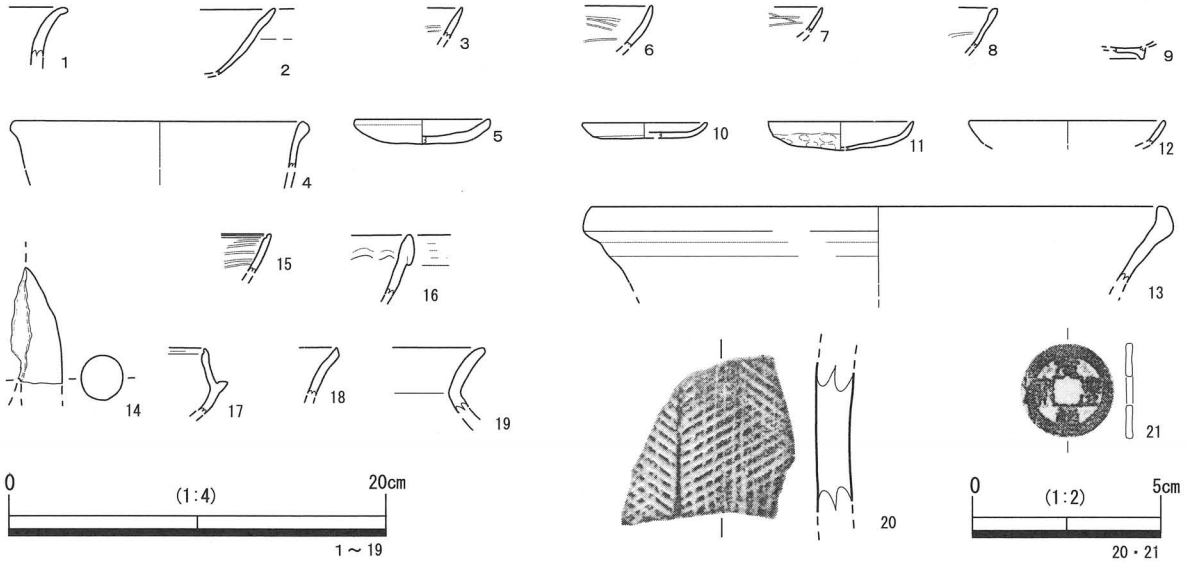
第５層中出土遺物　２は白色を呈する土師器皿で、口縁部外面に一段のヨコナデを施す。14 世紀頃のものとみられる。３は瓦器椀の口縁部片で、内湾し、尖り気味の口縁端部の特徴から樟葉型とみられる。４は玉縁状の口縁部をなす青磁碗である。５は褐色系の土師器小皿である。

（3）第６～９層の出土遺物

中世遺物を中心とし、下層から巻き上げられた古墳時代の須恵器片までが含まれていた。

９落ち込み出土遺物　６・７はともに樟葉型瓦器椀である。樟葉型瓦器椀Ⅲ－３からⅣ－１期のものか。８は内湾する口縁部形態で、端部はふくらむ。９は瓦器椀の底部とみられる。器表の摩滅により白色に近い色調を示す。10・11 は土師器小皿、12 は中皿で、いずれも褐色系の色調を呈する。13 は東播系須恵器鉢とみられるが、焼成は瓦質に近い。13 世紀頃のものか。

20 は、不明土器の体部片である。外面に矢羽状のタタキ目が１単位、その周りにも数単位のタタキ目が認められる。内面は摩滅が著しいが、ナデとみられるへこみがかすかに残る。ケズリ、タタキなどの痕跡は認められない。器厚が 1.0～0.9cm と厚い点と残存部の形状からは、甕などの大形器種と推測される。胎土は精良で、径１mm 以下の白色粒を３％、径１mm 以下の雲母を１％ほど含む。色調は 2.5Y5/2 暗灰黄を呈する。この小片のみからは、不良の須恵質焼成か、土師質焼成か、判断しがたい。



1…４土坑　２～５…第５層中　９…第６層　６～８・10～13・20・21…９落ち込み　14…19 溝　15…10 落ち込み　16…第９層（2009－10 次）　17…11 溝　18…第 10 層溝（2009－10 次）　19…27 土坑

第 40 図　森 2009－10 次・11 次調査出土遺物実測図

類例として、森遺跡96－４－３調査の未報告資料に、同様の矢羽状のタタキを施すともに器厚がほぼ一致する須恵質焼成の甕の体部片があり、20 も同様のものである可能性がある。他の類例として、矢羽タタキを施す庄内形甕があるが、20は庄内形甕ではないとみられる。その根拠は、内面ケズリを省略したものにしても分厚いことに加え、焼け歪みなどを考慮しても推定される大きさが庄内形甕を大きく上回ることである。同層中では、瓦器椀から、下層より巻き上げられた古墳時代須恵器片までが含まれ、時期は決定しがたい。陶質土器の可能性もあり、その位置づけは今後の課題としたい。

21は銭貨である。鋳上がりが悪く、摩滅も著しく、銭文は判別がつきにくい。宋銭の元豊通宝か。

10 落ち込み出土遺物　15は瓦器椀である。口縁は内湾し、端部内面に幅1㎜ほどの浅い沈線をめぐらす。ミガキは内面のみに幅1㎜ほどの単位で施される。口縁の形態とミガキ密度などから、樟葉型瓦器椀Ⅱ－３期、12世紀後半頃のものとみられる。

19 溝出土遺物　14は、土師質土器で、釜か鍋の脚部片とみられる。一部にススが付着する。

第９層出土遺物　16は森2009－10次調査にて検出した白磁椀で、中世前期のものとみられる。

（４）第10層以下の出土遺物

後世の耕作時に遺物が含まれる可能性があるが第９層以下では遺物量が極めて少ない。その中では、確実に中世以降に下る遺物は含まれない。

第10層出土遺物　17は、11溝出土の須恵器杯身で、田辺編年TK47型式～MT15型式の幅が考えられる。18は森2009－10次調査にて検出した第10層に対応する溝で出土した甕口縁部片である。口縁部形態から庄内形甕とみられる。

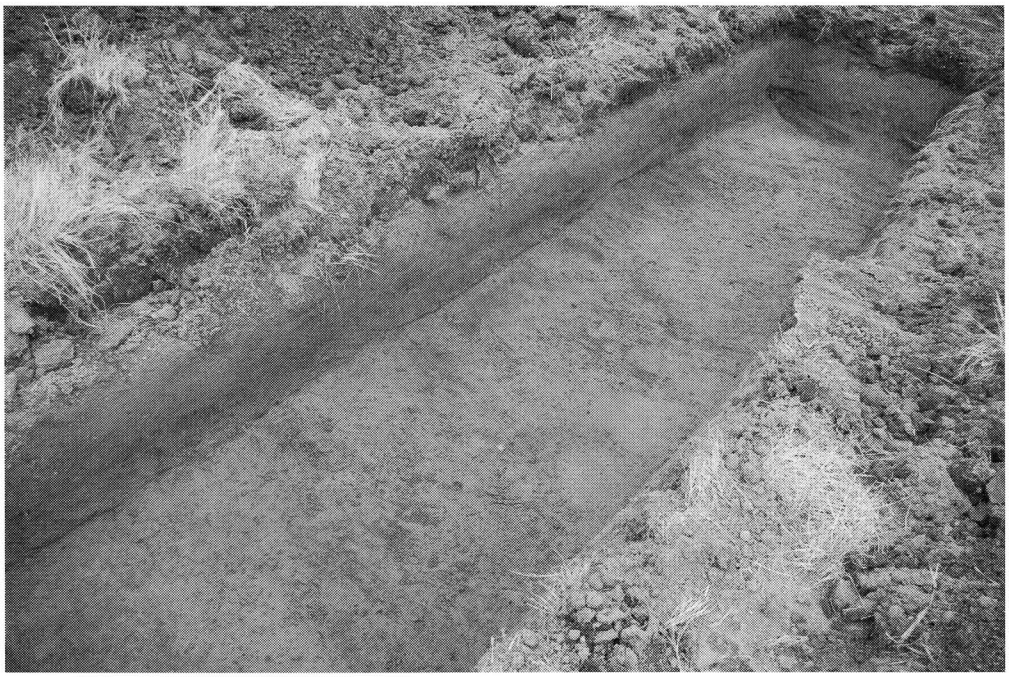
第11層出土遺物　19は27土坑出土の弥生土器甕の口縁部片である。胎土には、３㎜大の礫が多く混じる。このほか、図化しえなかったが、29・30土坑などで弥生土器とみられる土器片を検出した。

第５節　まとめ

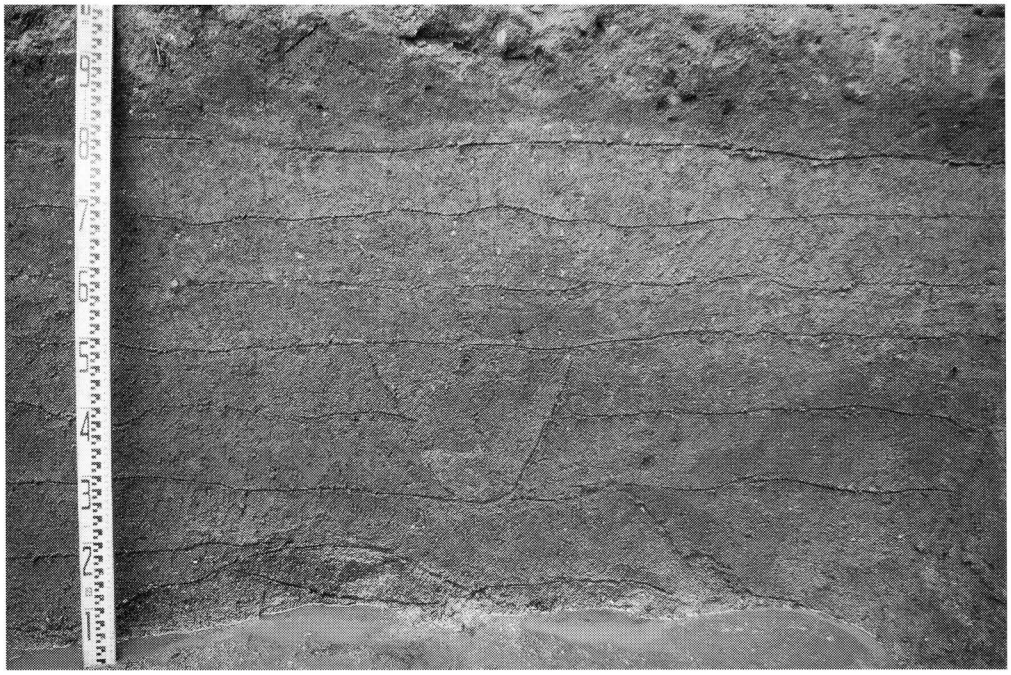
本調査では、古代以前の堀立柱建物跡を含むピット群と土坑と、古代以前の遺構・層を大きく削平して、耕作関連の遺構が形成された後、近現代まで連綿と耕作が継続する様相が明らかになった。30㎡ほどと小規模な調査であるとともに時期比定のてがかりとなる遺物出土が少なかったため、これらの遺構の形成時期と位置づけは、周辺の調査成果により再検討されていくべき課題である。出土遺物の中では、出土条件は良好ではないものの、矢羽状のタタキ目を残す甕の出土が注目される。これに関しては、類例との比較を通じてその性格を今後検討していくこととしたい。

写　真　図　版

写真図版１　交野郡衙跡 2009－１次調査　調査区西壁断面



写真図版２　森遺跡 2009－４次調査　第２調査区遺構検出状況（北西から）



写真図版３　森 2009－11 次調査　第１調査区北壁断面

写真図版４　森 2009－11 次調査　第１調査区第５層～10 層遺構（北から）

報告書抄録

ふりがな	へいせい21ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	平成21年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2009－Ⅰ
編著者名	小川暢子・吉田知史
編集機関	交野市教育委員会
所在地	〒576-0052　大阪府交野市私部１丁目１番１号　TEL (072)892－0121
発行年月日	2010年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
森遺跡（もりいせき） 2009－11次 調査	大阪府交野市（おおさかふかたのし） 私市（きさいち）２丁目 1114－８	27230	37	31° 46′ 17″	135° 41′ 16″	2010年１月７日 ～ 2010年２月５日	28.13㎡	個人住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
森遺跡	集落跡 生産遺跡	古墳時代～古代 中世～近世	掘立柱建物・ピット・土坑 溝・土坑・落ち込み	土師器・須恵器 瓦器・土師器・陶磁器・銭貨	

平成21年度　交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発　行　日　2010年３月31日
編集・発行　交野市教育委員会
大阪府交野市私部１丁目１番１号

印　刷　所　京阪工技社

（本報告書は、再生紙を使用しています。）